

太田川放水路完成50周年記念シンポジウム

実施報告書



平成30年3月

国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所

太田川放水路完成50周年に寄せて

太田川のデルタ（三角洲）地帯の上に発展した広島市街地は、過去に幾度となく洪水被害に見舞われ、人々の生活が脅かされてきました。国は、太田川の洪水被害を軽減するため、昭和7年に太田川放水路事業に着手しましたが、戦局の悪化により事業の一時中断を余儀なくされ、また、人類史上初めての原子爆弾の投下により、広島市街地は壊滅的な打撃を受けました。

終戦を迎え、再開された太田川放水路事業は、広島市の都市基盤の骨格を形成する事業として、区画整理などの戦災復興事業と連携して進められ、昭和43年3月に完成しました。太田川放水路の完成によって、広島市街地全体の洪水に対する安全度が飛躍的に向上するとともに、洪水を放水路へ分流することを踏まえ、市内派川において河岸緑地の整備が進められるなど、太田川放水路は水と緑あふれる「水の都ひろしま」の礎となっています。

この度、太田川放水路完成50周年の節目を迎えるに当たり、太田川放水路の役割を再認識しつつ、事業にご協力頂きました地域の皆様と、幾多の困難を克服し事業を完成させた先人の方々に深い感謝と敬意を表します。

結びに、これからの50年に向けて、地域社会の安全・安心の確保はもとより、世界に誇る国際的な水と緑の平和都市・広島にふさわしい水辺空間の創出に取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国土交通省 中国地方整備局長 川崎 茂信



目 次

開催概要.....	1
プログラム	4
主催者 開会挨拶.....	5
広島市立己斐小学校 4年生の合唱と発表	9
パネルディスカッション	24

■太田川放水路完成50周年記念シンポジウム

開 催 概 要

【開催概要】

太田川放水路完成50年の節目を迎え、戦災復興と「水の都ひろしま」の礎とも言える太田川放水路の役割を振り返るとともに、今後太田川が地域で果たすべき役割について考えていただくため、記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、前半、太田川放水路建設から今日に至るまでの記録映像「太田川放水路のあゆみ」の上映、己斐小学校4年生の児童の皆さんによる合唱や「太田川を学ぼう」をテーマとした発表、後半に「太田川のこれからを考える」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

当日は、ほぼ満席となる約580名のご来場をいただき、盛況に終わりました。

【テーマ】：「太田川放水路の50年を考える」

【日時】：平成30年2月4日（日） 13:00～15:30

【会場】：広島県民文化センター（広島市中区大手町1丁目5-3）

【主催】：国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所・広島県・広島市

【実施内容】

〈主催者挨拶〉

〈映像上映〉

「太田川放水路のあゆみ」

〈広島市立己斐小学校4年生の合唱と発表〉

合唱：「僕にできること」、「ぼくらの地球」

発表：「太田川を学ぼう」作文、イメージマップ

〈パネルディスカッション〉

テーマ：「太田川のこれからを考える」



【開催状況】



太田川放水路完成 50周年記念シンポジウム

太田川放水路の 50年を考える

プログラム

- 13:00～ 主催者 開会挨拶
- 13:10～ 映像「太田川放水路のあゆみ」上映
- 13:30～ 広島市立己斐小学校 4年生のみなさん
合唱 「僕にできること」、「ぼくらの地球」
発表 作文、イメージマップ「太田川を学ぼう」

休憩

- 13:55～ パネルディスカッション
テーマ「太田川のこれからを考える」

パネリスト (50音順)

NPO法人雁木組 理事長
氏原 睦子 長野県出身。地域づくりコーディネーターとして広島、長野県を中心にまちづくりや風景づくりのプロジェクトに関わる。広島市観光大使。広島市民賞受賞。

広島県観光連盟会長
オタフクホールディングス(株)代表取締役社長
佐々木 茂喜 昭和57年オタフクソース入社、工場製造課に配属されソース作りに従事、取締役 営業本部東京支店長、専務取締役 営業本部長などを歴任し、平成17年6代目オタフクソース社長に就任、平成21年よりオタフクホールディングス(株)代表取締役社長、平成29年より広島県観光連盟会長。

NPO法人日本水フォーラム代表理事
竹村 公太郎 昭和45年建設省に入省、宮ヶ瀬ダム工事事務所長、中国地方建設局河川調査官、近畿地方建設局長、国土交通省河川局長。退官後、(財)リバーフロント研究所代表理事などを歴任し、平成26年より現職。

広島市長
松井 一實
(代理：山地 正宏) 平成23年4月に市長就任、現在2期目。水辺を生かしたうるおいとにぎわいのある都市空間の形成など、「水の都ひろしま」づくりを国・県と連携のもと、市民と一緒に推進。

国土交通省太田川河川事務所長
徳元 真一 平成3年建設省に入省、中部地方整備局三重河川国道事務所長、内閣府政策統括官(防災担当)付企画官、京都府建設交通部理事などを歴任し、平成29年7月より現職。

コーディネーター

中国新聞社論説主幹
佐田尾 信作 島根県出雲市出身。昭和55年中国新聞社入社、編集委員、文化部長、論説副主幹などを歴任し、平成27年より現職。

- 15:30 閉会

■太田川放水路完成50周年記念シンポジウム

主催者 開会挨拶

【広島県】

広島県副知事の中下善昭でございます。

「太田川放水路完成50周年記念シンポジウム」の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

また、平素より、本県行政の推進について、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

私たちが生活する広島市の市街地は太田川デルタの上に形成されておりますが、大正から昭和にかけて、たび重なる太田川の氾濫により、多くの人命や家屋などが失われてまいりました。

このため、昭和初期から国直轄で太田川放水路の建設が進められ、昭和43年の太田川放水路の完成から50年、今日こんにちまで、洪水による被害が発生しておりません。

現在では、中国地方唯一の百万人都市である広島市の中心市街地が形成され、太田川放水路は都市基盤の礎となっているところでございます。

近年の我が国では、地球温暖化に伴う気候変動の影響等により、雨の降り方が局地化・激甚化しており、毎年、全国各地で大規模な水害が発生しており、住民の命を守るための治水対策の重要性が再認識されております。

本県では、「ひろしま川づくり実施計画2016」に基づき、ハード・ソフトが一体となった対策を、より一層推進するとともに、災害から命を守るために、適切な行動をとることができるように、県民、自主防災組織、事業者、行政等が一体となって「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」に取り組んでいるところでございます。引き続き、県民の安全・安心を確保するために、総合的な治水対策の推進に努めてまいります。

終わりに、御出席の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、開催のご挨拶といたします。



【広島市】

広島市都市整備局長の山地でございます。

本日は、大変お寒い中、御参加いただき、誠にありがとうございます。

本来であれば、松井市長が参って挨拶をするところでしたが、流行（はやり）のインフルエンザにかかりまして、本日の出席を控えさせていただきました。皆様もどうかお気をつけていただきたいと思います。

私が、市長から本日の挨拶をあずかって参りましたので、代読させていただきます。



本市は、緑豊かな中国山地に水源を発し、多島美を誇る静かな瀬戸内海に注ぐ、清らかな太田川の流に抱かれたデルタにおいて発展してきた「まち」です。

この「まち」は、1589年（天正17年）に毛利輝元が広島城を築城して以来、江戸時代には城下町として栄え、干潟を次々と干拓することで拡大しました。

1889年（明治22年）に市制を施行し「広島市」となった後は、広島城内に大本営が設置されるなど軍関係の施設が次々と設置され、軍事拠点としての性格を強めていき、1945年（昭和20年）8月6日、人類史上初めての原子爆弾の投下により壊滅的な打撃を受けました。

今日の広島「まち」には、75年間草木も生えぬとまで言われた惨状からは想像すらできないほど、美しい「水と緑」があふれています。この復興の象徴とも言える「水と緑」は、廃墟から立ち上がった先人たちの努力のたまものであるとともに、築城以来「まち」と共に歴史を刻んできた太田川の恩恵でもあります。

本日のパネルディスカッションでは、太田川放水路の完成50周年を記念して、太田川放水路の整備により、被爆後の惨状の中から、水と緑にあふれた美しい平和都市として生まれ変わった本市のまちづくりについて、広島城築城からの歴史を振り返りながら、今や都市の重要な構成要素となっている“川”の利活用について御紹介することとしております。

さらに、今後本市が持続可能な中枢都市として発展していく中で、どのような“川”を目指せばいいのか、御一緒に考える機会になれば幸いです。

終わりに、御参加の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

【中国地方整備局】

国土交通省中国地方整備局長の川崎でございます。

本日はお寒い中、太田川放水路完成五十周年記念シンポジウムにご来場いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から、国土交通行政の推進にあたりまして、多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、広島市は、太田川の下流に位置し、発展してきましたが、過去、幾度となく洪水被害に見舞われ、人々の生活が脅かされてきました。

これらの洪水被害を軽減するため、国は昭和7年に「太田川放水路事業」に着手いたしました。その後、戦局の悪化により事業は一時中断を余儀なくされましたが、戦後、広島市の都市基盤の骨格を形成する事業として、戦災復興事業と連携して進められ、昭和43年3月に完成しました。

ここに、事業にご協力頂きました地域の皆様方、幾多の困難を克服し事業を完了させた先人の方々のご尽力に深い感謝と敬意を表します。

太田川放水路の完成により、広島市街地は大きな洪水被害を受けることがなくなったことに加え、天満川や元安川などの市内派川の河岸緑地整備も進められ、今日の水と緑あふれる「水の都ひろしま」の礎となっています。また、川岸からも水上からも眺めは緑豊かで、パリのセーヌ川にも負けない地域資源としてのポテンシャルを有していると考えており、世界に誇る国際的な水と緑の平和都市・広島にふさわしい水辺空間の創出に取り組んで参りたいと思います。

一方で、太田川放水路があるからといって広島市街地は今後も安全であるとは言えません。ご承知のとおり、全国各地で毎年のように大規模な洪水・土砂災害に見舞われており、ここ広島においても平成26年8月に甚大な被害をもたらした土砂災害が発生し、被災地の早期の復旧・復興に全力で取りくんでいるところです。

また、地球温暖化などの気候変動の影響により、自然災害リスクの増大も懸念されていることから、中国地方整備局といたしましては、地域の安全・安心の確保に向けて、引き続きハード・ソフト一体となった防災・減災対策を推進してまいります。

最後になりますが、本日のシンポジウムにご来場の皆様にとりまして有意義なものとなることを祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。



広島市立己斐小学校 4年生の合唱と発表

合唱:「僕にできること」、「ぼくらの地球」

発表:「太田川を学ぼう」作文、イメージマップ



合唱

指揮者：石徳 文子 先生

伴奏者：網代 彩加 先生

「僕にできること」

僕にできること 考えてごらんよ
僕は風になり 心の葉っぱをゆらして
もしもこの地球(ほし)に みどりがなかったら

優しい思いやりも きっと忘れてた
人も鳥も花も みんな生きている
いのちの根っ子で つながって
みどりの樹の下で 考えてごらんよ
みどりの樹の下で 考えてごらんよ

君にできること 考えてごらんよ
君も風になって 心の小枝に止まって
もしもこの都会(まち)に みどりがなかったら
ふれあう言葉さえも きっと失くしてた
森も川も山も みんな生きている
いのちのしずくを わけあって
みどりの樹の下で 考えてごらんよ
みどりの樹の下で 考えてごらんよ

人も鳥も花も みんな生きている
いのちの根っ子で つながって
みどりの樹の下で 考えてごらんよ
みどりの樹の下で 考えてごらんよ 考えてごらんよ

「ぼくらの地球」

青い青い地球 どの星よりも美しい
この地球に住んでいる 世界中の人たち
心の手をつないで 今この星をまもる時
そこに生まれる優しさ そこからつながる未来
一人の力を信じて 動き出せば
水も光も空気も ぼくらの星を輝かせる
Let's save. Save the Earth! 出来ることからはじめよう
Let's save. Save the Earth! ぼくらの地球

丸い丸い地球は もう壊れると泣いている
この地球を愛している 世界中の人たち
歌おう手をつないで 今この星をまもるため
そこに生まれる友情 そこからつながる命
自分の力を信じて 動き出せば
いつもどこでも誰でも ぼくらの星を輝かせる
Let's save. Save the Earth! 出来ることからはじめよう
Let's save. Save the Earth! ぼくらの地球
Let's save. Save the Earth! 出来ることからはじめよう
Let's save. Save the Earth! ぼくらの地球



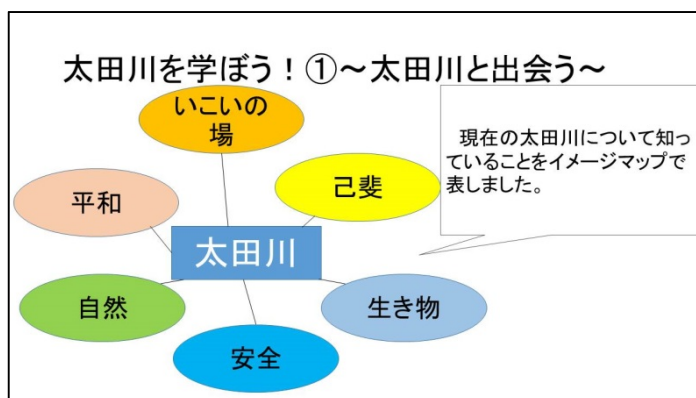
■発表「太田川を学ぼう」

己斐小学校では、己斐の町にほこりもち、共に生きていく仲間づくりを目指して、己斐学習をしています。4年生は、学区内にある太田川放水路の学習に取り組みました。

【発表者：藤原 嘩世（ふじわら かよ）、大山 悠仁（おおやま ゆうじん）】

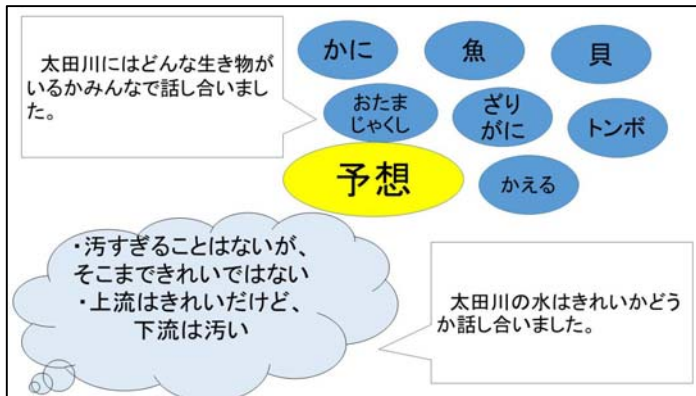
●はじめに、「太田川について知っていること」をイメージマップで表しました。みんなで考えていく中で、

- ・己斐の町の近くを流れている。
 - ・生き物がたくさんいる。
 - ・河川敷では、ゴルフや野球ができる。
 - ・原爆ドームの近くを流れていたり、灯ろう流しをしたりする。
 - ・上流のほうには、森林がたくさんある。
 - ・放水路ができて、水害がなくなった。
- など、たくさんのキーワードが出ました。



●次に、太田川にはどんな生き物がいるか話し合いました。カニ、魚、貝、おたまじゃくし、ザリガニ、とんぼ、かえるなど、自分たちの身近にいる生き物が出てきました。

太田川の水はきれいなのかについても、話し合いました。上流はきれいだけど、下流はきたない。きたないことはないが、すごくきれいとも言えないという意見が出ました。



●太田川河川事務所の方に来ていただいて、太田川放水路ができるまでのお話を聞きました。話を聞いて知ったことは、放水路はとても苦労して作られたということと、そのおかげで、太田川放水路が完成してからこれまで50年間、水害が一度もなかったということです。



●実際に太田川河川敷へ行き、「エコロジー研究会ひろしま」の方からお話を聞きました。ネイチャーゲームをしました。自然に関するカードを胸に付け、つながっているもの同士でペアになりました。最後には全員が輪になって手をつなぐことができました。自然のものは全てつながっていることが分かりました。

太田川を学ぼう！③～現在の太田川～




ネイチャーゲーム
自然に関するカードを胸につけて、つながっているもの同士でペアになりました。最後には、全員が手をつなぐことができ、全てのものはつながっていることを学習しました。

●干潟観察では、たくさんの生き物がいました。ケフサイソガニやベンケイガニなど、知らない生き物ばかりで、とても勉強になりました。

●水質検査では、COD（シーオーディー）と pH（ペーハー）を使って調べました。太田川放水路は海水が混ざっていることを初めて知りました。また、予想よりはきれいということが分かりました。

太田川を学ぼう！③～現在の太田川～



干潟観察
予想以上に生き物がいました。

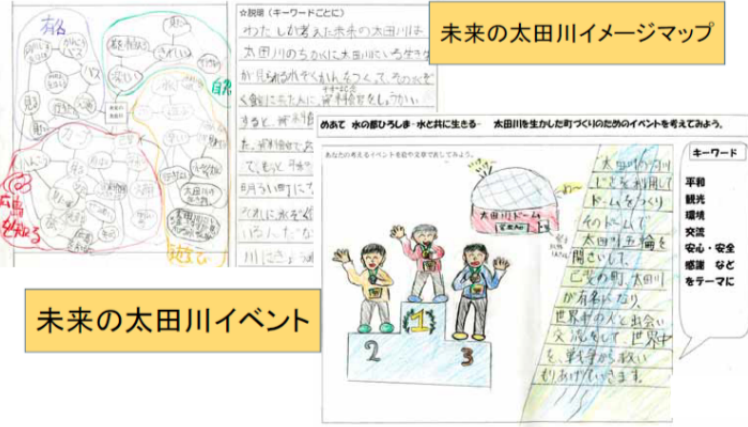
太田川を学ぼう！③～現在の太田川～



水質検査
CODとpHを使って調べました。太田川放水路の水は、海水も混ざっていることが分かりました。水を取る場所によって違うけど、そこまで汚くはないことが分かりました。

●最後に、学習のまとめをしました。自分の考える未来の太田川のイメージマップを作りました。キーワードごとに、未来の太田川や、広島、そして世界がこうなったらいいなという思いをまとめました。

未来の太田川イメージマップ



未来の太田川イベント

キーワード
平和
健康
環境
交流
安心・安全
感謝 など
をテーマに

また、水の都ひろしまをテーマに、広島や己斐の町を盛り上げるイベントも考えました。
4名が発表します。聞いてください。

【4年1組 河野 寛正 (こうの ひろまさ)】

己斐小学校
四年一組 河野 寛正
こうの ひろまさ
一月 日

ぼくの考える「未来の太田川」は、いこいの場があり、遊ぶことが出来ます。そうすると、生活がかかせない物：水が必要になります。太田川のきれいな水、おいしい水で、元気になる、いつかは、「水の都、広島」にきつたりします。これは、「水での生活」です。このきれいな水を、水不足ごまかしてこい入る人たちにとどけないといけません。

次に、太田川といえば己斐、己斐といえばスツコケ三人組、スツコケ三人組といえば、なすまさもとさんです。スツコケ三人組の物語の中で、太田川は、「大川」という名前が登場します。スツコケ三人組が有名になれば、広島が有名になり、広島が有名になれば、太田川も、有名になります。そうなれば、日本中からやってくる人たちに、太田川や広島のことを、知ってもらいたいことが出来ます。そして、ぼくたちの町、己斐にも、たくさんの人に、やっきてもらいたいのです。己斐の町の歴史やよいところをたくさん教えたいです。

()

一月 日

太田川は美しいです。みんなが協力して、かんきょうを守り、動物や、作物を育て、その命をいただくことによつて、一人一人が生きることが出来ます。それが生きるための生活のもとになります。これが、一人一人の「カ」です。人は、一人では生きていけません。みんなが協力して、命をつないでいかなければいけません。

太田川は、みんなの場所で、有名です。そこから、原爆ドームにもつながっています。

ゆうらん船で行くことも出来ます。原爆ドームは、世界の人たちに、

「戦争は、命や希望をうばうもの。二度と起こしてはいけません。」

と、うたえています。己斐小学校は、平和の花・カンナを植え、球根をいろいろな学校に送ったり、8月6日の夜には、己斐小学校で、だびにふされた人々の無念の思いを考え、ピースメリアルセレスニーを行ったりして、平和を発信しています。太田川から、世界に

()

3

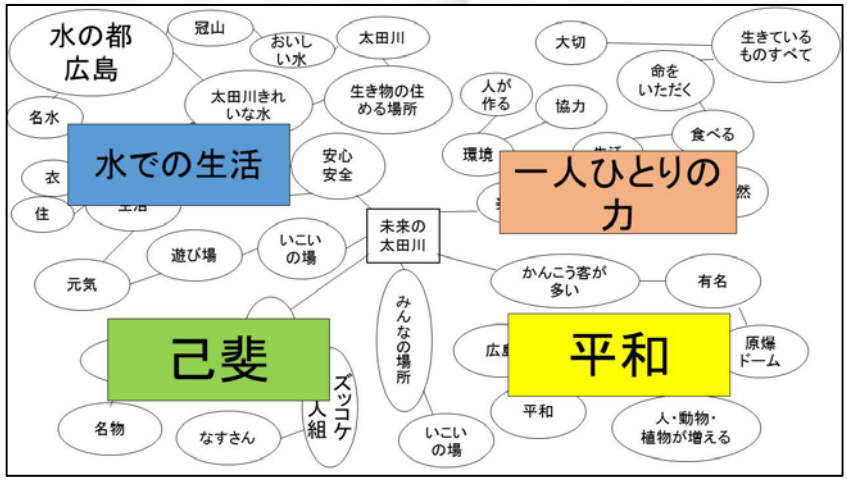
つながらをもつと思えます。

このように、未来の太田川は、いろいろな

平和の大切さを発信したいです。

(月 日)

FAT. 20×20



広島市立己斐小学校
四年一組 小出花音

わたしの未来の太田川のイメージを発表します。

まず、「安全、安心な太田川」です。もし本当にきけんがりになったら、だれでも気軽に太田川に遊びに行けるようになるかもしれません。そうしたらより、いこいの場になると思います。

次は、わたしたちの町です。わたしたちの町は、今でもカーブや宮島など、ほこりに出る有名なものがいっぱいあります。けれども、もっと観光名所をふやすために、わたしたちの町の太田川が有名になると、もっと広島は、有名な所になると思います。

次に、「太田川で遊ぶ」は、今でも十分河せんじきなどで、遊ぶのですが、川の中で遊ぶことが出来ないのです。川の中を上りきれいに、ボランティアなどをぼんやりしたら、太田川でオリンピックやプール場が作れるかもしれません。そうしたら、よりよい太田川になると思います。

(小出花音)

私の考えるボランティアは、「太田川有為活動ボランティア」といいます。目標は、太田川のせいそくや、よりいこいの場にするには、どうすればいいか考えたり、活動したりするボランティアです。内容は、地いきの人や、子ども、大人までがいっしょになって活動をするボランティアです。

また、己斐小学校にたくさんクラブがあるのですが、新しいクラブも考えてみました。それは、木曜日に1、2年生が自由に参加できるクラブです。1、2年生までが自由に参加し、学習していかない学年も、太田川を好きになって、本格的に活動をします。

最後に、「環境」です。太田川は、今でもそんなにきれいな川ではないのですが、よりきれいな川になり、ごみのない太田川になったら、新しく、きれいな川に住む魚や生き物たちが来るかもしれません。もし、本当にそうなら、己斐小学校以外の学校からも、生き物を観察しにきたり、河せんじきに平和の花を

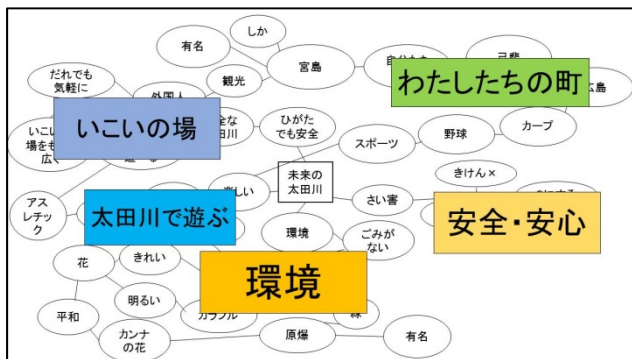
(小出花音)

3

す。 ません。 シナを植えて、平和にも、つながるかもしれ

これで、イメージマップの発表を終わります。

(小出花音)



目標
太田川の清掃や、よりいこいの場にするには、どうすればいいか考えたり、活動したりする。地域の人や、子ども、大人までが一緒になって活動する。(太田川有名活動ボランティア)

ボランティア

クラブ
己斐小学校で、木曜日に1～6年生までが、自由に参加できる。目標1～6年生までが自由に参加し、学習していない学年も、太田川を好きになって本格的に活動をする。カンナなども植える活動をする。



広島市立己斐小学校

四年十組

山門 快

（2月22日）

ぼくがかんがえる太田川を生かした町づくりのためのイベントのキーワードは、「伝える」です。
ぼくがでいあんするイベントは、上流と下流の小学校とうしの学習大会です。
この会は上流と下流の小学校の学習をふかめて、伝えあうことで、交流するといふものです。
この会は年に一度、下流と上流の小学生、そのほごしの方、町の人を中心とし、とくに小学生の交流でなかよくなる会です。
カヌーで集合します。下流から上流に同時に出発します。出会った所が会を行う会場です。
ぼくは上流の人からかんむり山、（太田川の上流のことや、カヌーのこと）をおしえてもらいたいです。ぼくらが任お下流の人は、魚つりや、平和のことをおしえてあげて、さいごにコンサのなえをフレゼントしたいです。そして、そだててもらったためにせわのしかた

（山門 快）

などをおしえ、コンサの花の歴史を知ってもらい、その歴史をずとかがりついでいきたいのです。
そして、おたがの学習したことをふり返り、平和な広島を考えたいです。
さらに、上流と下流の人たちの協力でおたがのいかなかよくなれはと思ひます。
これは、世界にも発信すると伝わる大切なことです。
そして上流と下流のおたがののこを知れはみんな太田川をきれいにし、そのことを世界にも発信するときれいな太田川になり、みんなの顔にえがおがうかぶようにしたいのです。
これを発表をおわります。

（2月22日）

（山門 快）







広島市立己斐小学校

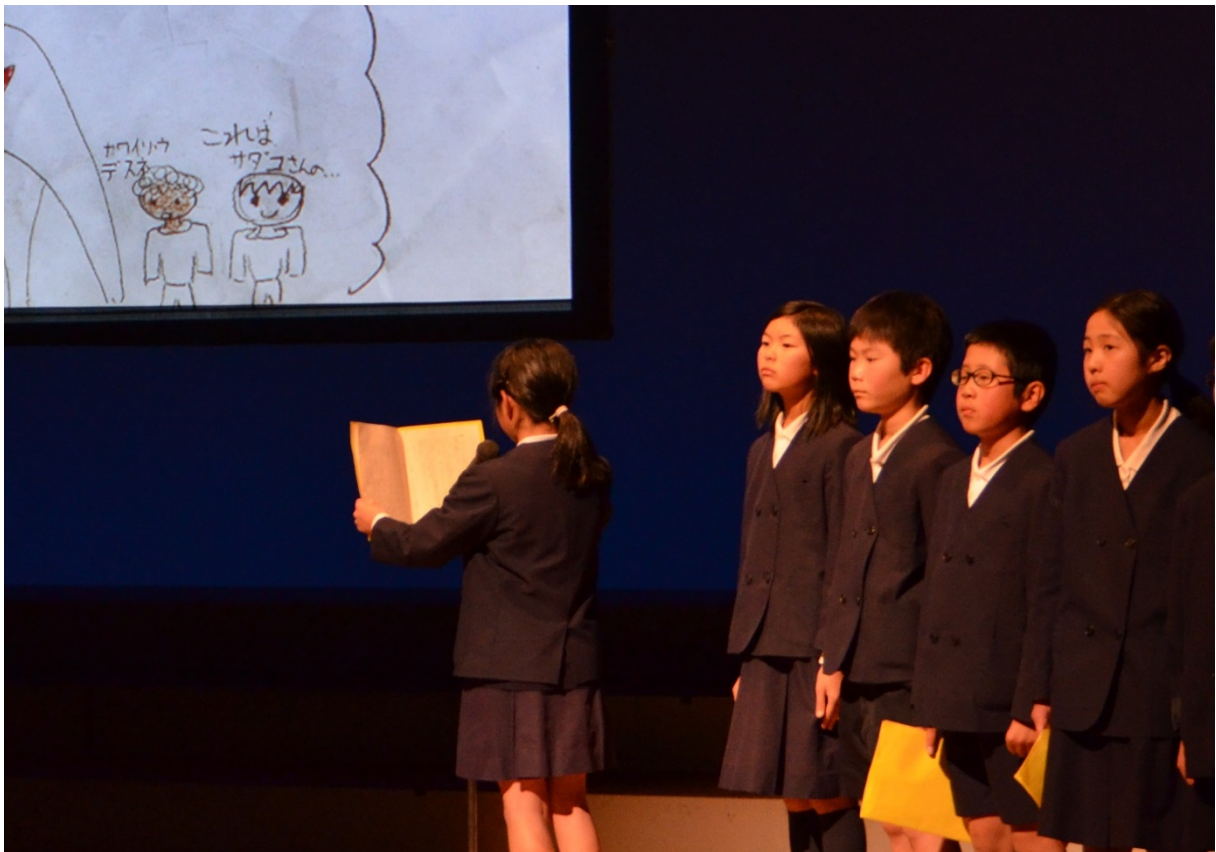
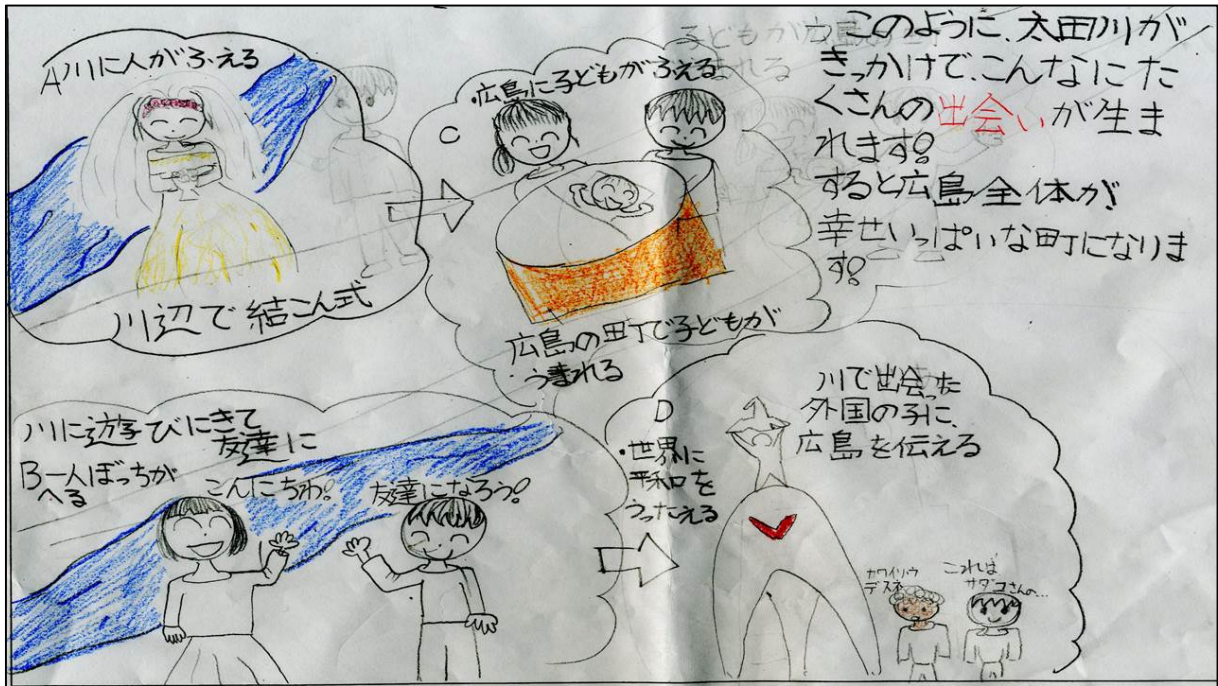
四年一組 櫻井 愛乃

わたしの考えた太田川を生かした町づくり
のためのイベントのキーワードは、「出会い
です。たくさんのお出合いがある太田川は
イメージマップにあるように、もっというん
なイベントをおこなえば、出合いが広がる
と思います。そうすれば、おつき合いもして、
結こんにつなげるきっかけにもなるかもしれ
ません。イラストにあるように、川辺ですてき
な結こん式をあげられるイベントをすれば、
女の子が、
っいいなあ。私も川辺で結こん式をあげよう
と、思うがもし水ません。たくさんのカップ
ルがたんじょうします。そうすれば、今へっ
てきている子どもがふえて、日本をたすける
ことができると思います。
もちろん、友達もふえます。友達がふえたら、
平和にもつながると思います。なぜなら、
外国の人とも友達になれるかもしれないう
です。そうすれば、友達と広島をまわって、
せんそうのおそろしさや、平和の大切さを知

(桜井 愛乃)

てもらえるきっかけにもなるかもしれませ
ん。そうして世界をたすけられたら、わたし
はうれしいです。
こうして、広島にきょう味をもってもらっ
て、広島を好きになってもらえれば、この町
が、もっとも、と明るくなり、もっともっと
美しい町になっ、て、広島がぐんぐんのびてい
けばいいと思います。

(桜井 愛乃)



(まとめ)

太田川の学習を通して、太田川を身近に感じることができ、わたしたちの住む広島に流れる太田川にほこりを持ち、大切にしていきたいという気持ちをもつことができました。未来の人たちに美しい太田川を残すためには、たくさんの人に語り継いでいくこと、伝えていくことが大切だと思います。

そして、自分たちが大人になっても、自分の子どもたちに語り継ぐことで、ぼくたちのえがいている夢を、かなえていきたいと思います。

これで、己斐小学校の発表を終わります。



■己斐小学校 4 年生名簿

4年1組		4年2組		4年3組	
担任：井尻栄彦先生		担任：江川まりえ先生		担任：網代彩加先生	
池下 侑真	いけした ゆうま	井手口 倅奈	いでぐち ゆきな	相川 晴輝	あいかわ はるき
石橋 花菜	いしばし はな	請川 尊統	うけがわ たつと	五十嵐 陽人	いがらし はると
井上 望愛	いのうえ のあ	江上 麻里夜	えがみ まりや	泉迫 泰生	いずみさこ たいき
井上 隼臣	いのうえ はやと	大塩 純矢	おおしお すみや	一色 康成	いっしき こうせい
岩崎 世摩	いわさき よま	岡崎 菜菜帆	おかざき まなほ	上本 拓海	うえもと たくみ
江子 晃史	えご あきふみ	沖本 賢信	おきもと けんしん	内田 灯音	うちだ あかね
大田 咲	おおた さき	小倉 豪仁	おぐら たけひと	大谷 英之	おおたに ひでゆき
奥元 響輝	おくもと ひびき	柿原 一樹	かきはら かずき	大西 加奈人	おおにし かなと
小野 隼	おの はやと	上河内 凜	かみごうち りん	大山 悠仁	おおやま ゆうじん
梶山 新太	かじやま あらた	香山 優	かやま ゆう	梶岡 那滯	かじおか なお
金光 凧斗	かねみつ なぎと	坂浦 悠希	さかうら ゆうき	河田 大和	かわた やまと
狩谷 朋大	かりや ともひろ	佐々木 朋也	ささき ともや	熊谷 弾	くまがえ はずむ
木本 優菜	きもと ゆうな	笹山 琳太郎	ささやま りんたろう	栗栖 朋也	くりす ともや
小出 花音	こいで かのん	佐藤 友哉	さとう ともや	桑原 翔	くわばら しょう
河野 寛正	こうの ひろまさ	澤田 侑七	さわだ ゆうな	小池 修平	こいけ しゅうへい
櫻井 愛乃	さくらい よしの	住田 蒼磨	すみだ そうま	小林 美月	こばやし みつき
佐々木 隆成	ささき りゅうせい	高柴 陽大	たかしば ようだい	篠倉 依那	ささくら えな
杉尾 魁星	すぎお かいせい	高田 薫	たかた かおる	定兼 実香	さだかね みか
杉原 宗磨	すぎはら しゅうま	竹田 璃生南	たけだ りおな	塩谷 里緒	しおたに りお
住廣 歌	すみひろ うた	武部 紗季	たけべ さき	篠原 望碧	しのはら のあ
空本 亜緒依	そらもと あおい	檀 朋花	だん ともか	須磨 美空	すま みそら
竹添 ひまり	たけぞえ ひまり	テンガン ジョパンナ	てんがん じょばんな	田中 天悠	たなか たかはる
竹本 早琉	たけもと はる	利重 凧紗	とししげ なぎさ	為則 春南	ためのり はるな
立畑 陽輝	たちはた はるき	長岡 剛	ながおか ごう	テンガン 心月	てんがん みつき
谷口 明日香	たにぐち あすか	二階堂 花帆	にかいどう かほ	中島 凜久	なかしま りく
中田 真利愛	なかた まりあ	西本 光希	にしもと みつき	名柄 祐輝	ながら ゆうき
野田 真優奈	のだ まゆな	額田 慕華	ぬかた ほのか	東本 智菜	ひがしもと ちな
原田 航	はらだ わたる	信重 壮次郎	のぶしげ そうじろう	引地 由	ひきち ゆい
藤野 翔太	ふじの しょうた	藤原 嘩世	ふじわら かよ	藤井 琴心	ふじい ことは
堀 心彩	ほり ここあ	前田 蓮生	まえだ れんしょう	藤永 愛佳	ふじなが まなか
湊 菜月美	みなと なつみ	三井 琥太郎	みつい ことろう	藤野 悠太	ふじの ゆうた
矢田貝 心優	やたがい しゅう	許田 唯人	もとだ ゆいと	藤原 みひろ	ふじわら みひろ
山門 快	やまかど かい	山本 勘太	やまもと かんた	見尾 翔太	みお しょうた
山口 繫	やまぐち かける	米田 悠花	よねだ はるか	美野 夏生吏	みの かいり
山沢 拓海	やまさわ たくみ	渡邊 大祐	わたなべ だいすけ	森内 愛子	もりうち あいこ
山田 侑杞	やまだ ゆうは	竹下エガール	たけした えがーる	吉廻 百々花	よしざこ ももか

注) 当日欠席者を含む

■太田川放水路完成50周年記念シンポジウム

パネルディスカッション
「太田川のこれからを考える」



○**司会** 皆様、お待たせいたしました。

時間となりましたので、パネルディスカッションを始めさせていただきます。

ステージには、行政、民間、NPO 法人など、平素より川やまちづくり、観光に関連して御活躍しておられます皆様をお招きいたしました。

さまざまな見地から活発な御意見をいただき、「太田川のこれからを考える」をテーマにお話をさせていただきます。

それでは、早速、コーディネーター、パネリストの皆様を御紹介いたします。

ステージに向かって右手側より、NPO 法人雁木組理事長 氏原睦子様でございます。(拍手)

広島県観光連盟会長・オタフクホールディングス株式会社代表取締役社長 佐々木茂喜様でございます。(拍手)

NPO 法人日本水フォーラム代表理事 竹村公太郎様でございます。(拍手)

スクリーンを挟みまして、主催者であります広島市長代理 広島市都市整備局長 山地正宏でございます。(拍手)

同じく主催者であります国土交通省太田川河川事務所長 徳元真一でございます。(拍手)

最後に、本日のコーディネーターをお願いしております中国新聞社論説主幹 佐田尾信作様でございます。(拍手)

以上 6 名の皆様でパネルディスカッションをお願いいたします。

ここからはコーディネーターの佐田尾信作様に進めていただきます。

佐田尾様、よろしく願いいたします。

○**佐田尾** 佐田尾と申します。



先ほどは、ステージに上がりかける子供さんがおられて、ステージにお兄ちゃんかお姉ちゃんかいたのかなと、ふと思っておりました。

それにしても、己斐小の皆さんの発表には本当に感心して、もう、参ったという感じがしました。

もうこのシンポジウムは要らないのではないかという気までしてしまっていて、少子化とか婚活の心配もしてもらったり、何より「ああ、なるほど」思いましたのは、上流の冠山あたりの源流の小学校と下流の小学校との交流というアイデア、しかもカヌーで行き来をしようということです。

確かに大人はどうしても縦割りですよね。国だとか、県の管理だとか、市の管理とか言います。大人はどうしても縦割り、タコつぼに陥りがちですけれども、子供たちの発想は本当に自由で、先ほどの発表は私も個人的にとっても参考になりました。

山の学校と海の学校の交流とかよくありますが、そういう源流の学校との交流は太田川を通じて上流と下流をつなぐ方法の一つだと先ほど考えたところです。

本日は、「放水路完成 50 周年記念シンポジウム」と銘打ってはいますけれども、やはりここは、太田川全体、それから川と海、広島湾のこと、広島のマチのこと、全体を考えた大きなくくりの内容にできればというふうに思っております。よろしく御清聴ください。

それでは、先ほど放水路の歩みの映像をごらんいただいたのですが、最初に放水路建設の流れ、それから現在までの効果、意義、そういったものを徳元さんからお願いします。

○徳元 先ほど映像でもごらんいただきましたが、私から、放水路のこれまで、それから効果等について少しお話をさせていただきます。



御存じのとおり、この広島市の市街地は太田川の三角州（デルタ）に発達してございます。

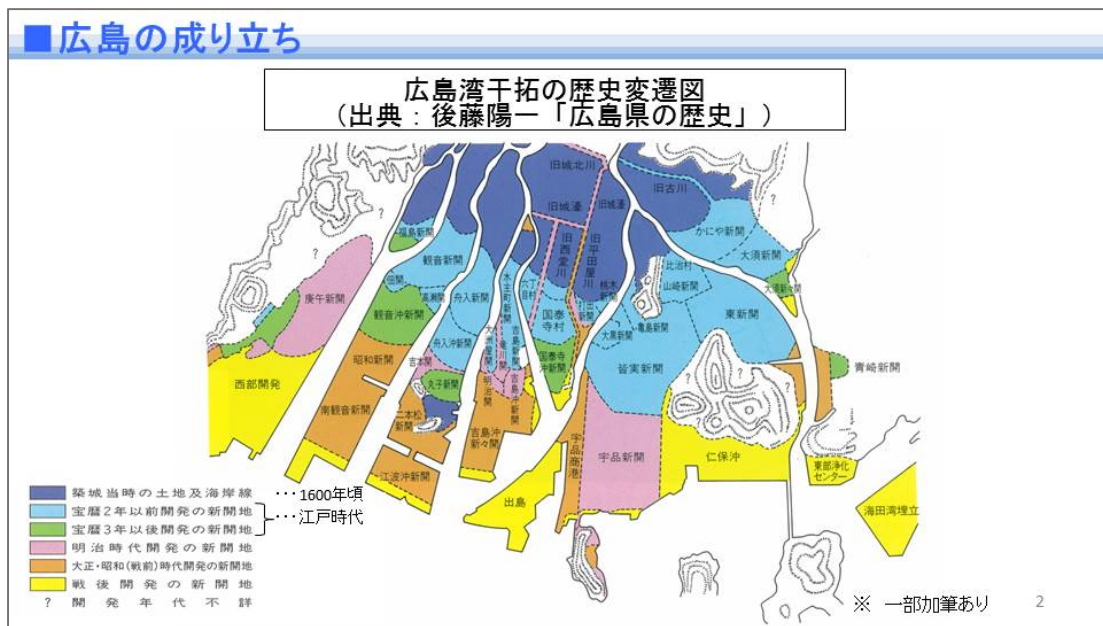
もともと、広島城が築城されたころ、これは 1589 年でございますが、そのころ海岸線は今の平和大通り付近にあったと言われております。

その後、干拓、埋め立てを繰り返してその市街地を拡大していったという歴史がございますので（図—1）、標高も非常に低いところでございまして、過去から幾度と

なく水害に見舞われてきたところでございます。

記録によりますと、江戸時代は 60 回ぐらい、それから明治から戦前にかけても 10 回といえますから、数年に 1 回ぐらいの割合で水害を受けていたということが言えると思います。過去の洪水の写真を幾つかごらんいただきますが（図—2）、大正から昭和の頭ぐらいにかけて、ごらんいただいているような状況であったということでございます。これも大正、昭和の洪水の写真でございます（図—3）。

こういうふうには、繰り返し洪水による被害を受けてきたということもあり、地域から太田川を



図—1 広島の成り立ち



図—2 放水路完成以前の洪水(1)



図—3 放水路完成以前の洪水(2)



図—4 太田川放水路の歩み

抜本的に改修してほしいという要望が強まりまして、先ほどビデオでもございましたが、昭和7年にこの太田川を国が直轄で改修することになりました(図—4)。

その計画の基礎となりましたのがこの太田川放水路の建設でございます。昭和9年に工事の起工式を行いました。戦争に入り、戦局が悪化して、昭和19年に一旦工事は中断いたします。

昭和20年に原爆も落とされて、焼け野原になってしまうわけでございます。

戦後すぐ工事を再開しようとしたわけでございますけれども、全部焼け野原になってしまっていて、放水路のために買収した用地も戦前にたくさんあったわけですが、そういったところに、焼け出された方がバラックを建てておられたり、また、そういったところを耕作されていたり、さらには全部焼け野原になったのだから放水路はこの場所でなくてもいいではないかというような御意見もあったと聞いております。

戦後工事を再開するまで少しそういったこともあったようでございますけれども、26年に工事を再開して、43年に放水路が完成したというところでございます。

放水路の建設に当たりましては、単に放水路をつくっただけではなくて、先ほどビデオでもございましたように、広島戦後の復興と並行して進められてきたと言ってもいいと思います。

新しく川を掘るわけでございますから、その東西の交通を確保するために、ここにはございますように、かけかえも含めて、11の新しい橋をかけております。

鉄道も、山陽本線、可部線、それから広電の市内電車、こういったものを移設しております。さらに、横川駅は今、高架になってございますが、これは、この放水路建設事業の一環として横川も高架化したというところでございます(図—5)。

右下のほうにいろんな数字が出ておりますが、全体の総工費は、今のお金にすると約9600億円で、これだけのお金を投資してこの放水路ができ上がったということと、あと、先ほども少しお話がありましたように、もともと山手川、福島川という川を活用するような形でこの放水路をつくったわけでございますが、その中州などには集落もございまして、全部で1800戸の方に移転をいただいた。これだけの大工事であったということでございます。

放水路に伴って行われた工事でございます。写真も少しごらんいただきたいと思います(図—6)、

■放水路工事に伴って行われた工事



図—5 放水路工事に伴って行われた工事(1)

■放水路工事に伴って行われた工事



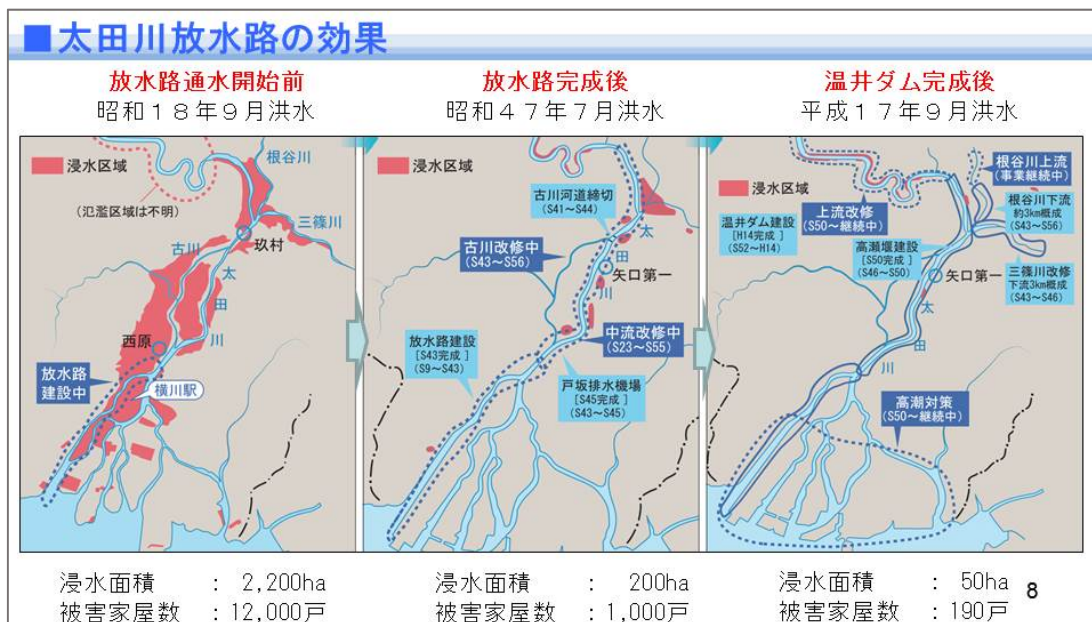
図—6 放水路工事に伴って行われた工事(2)

放水路自体は基本的には掘っていくだけの工事でございますけれども、幾つかかけた橋には特徴的なものもございます。

当時、さまざまなタイプで、できるだけ新技術も導入した橋をかけていこうという意見があったと聞いております。左下にあります旭橋、これはアーチ橋の一種のローゼ橋という橋梁の種類でございますが、この3連の橋梁でございます。真ん中の径間長 102メートルというのは、当時、このタイプの道路橋としては世界最大級であったということでございます。

この放水路ができたことによりましてこの市内中心部の洪水被害がどういうふうになったかというものを、この三つの絵で比較したいと思います(図—7)。

昭和18年は放水路ができる前の洪水、それから昭和47年の放水路完成後の洪水、それから平成17年、最近の洪水でございます。洪水の規模は同じぐらいとさせていただければいいのですが、昭和18



図一七 太田川放水路の効果

年は、まだ放水路もございませんでしたので、市街部でもかなりのところが、このピンクに塗ったところが浸水しました。例えば横川駅のあたりでは 1.5 メートルぐらい浸水したという記録が残っております。

これが、放水路ができた後は、市内中心部は全然浸水被害がなくなりまして、さらに、上流のほうに向かってどんどん改修も進めていったり、あるいは、16年前になりますが、温井ダムが完成いたしました。中流から上流にかけても浸水箇所が減っているというところでございます。

治水の話は今申しました。次は環境の話をし少ししたいと思います。

この太田川放水路は、人工的な放水路でございますけれども、海からも塩水が入ってくる、上流から雨水が流れてくるということで、これが交わった汽水域になっております。

干潟も下流域に広がっております。干潟の面積は、大正の終わりごろには広島湾全体で約 700 ヘクタールぐらいあったと言われておりますけれども、干拓・埋め立てで減っております。最近では広島湾全体で 80 ヘクタールぐらいになっていると言われておりますが、そのうち 8 割ぐらいがこの太田川放水路の中の干潟であるということでございます (図一八)。



図一八 太田川放水路の環境

こういったところでございますので、右から二つ目でございますが、塩生植物、こういう汽水域に生えるような植物群落があったり、あるいは河口近くではアサリとり、それから上流のほうではシジミとり、こんなこともできる環境が広がっております。

太田川放水路は、そもそもの目的は治水ということでつくられたわけでございますけれども、放水路ができたことによりまして、もともと流れていたほかの川、例えば旧太田川とか天満川、元安川、京橋川、猿猴川、こういったところの改修をしなくてよくなったというのも大きな特徴でございます。

それでどうなったかと言いますと、市のほうでは戦災復興事業で川辺にずっと緑地帯をつくっていかれたということでございます。

本来であればこういった川の堤防の嵩上げとか川幅を広げるために周辺の家にといていただかないといけないといったことがあったと思うのですが、その洪水処理を放水路が一手に引き受けたことによって、そのほかの川ではこういう水と緑豊かな河川環境が生まれることになりました。

今ごらんいただいておりますのは、その中でも代表的なところでございます（図—9）。

これは基町地区でございます。戦後、戦災者にここに入らせていただいて公営住宅をつくったわけでございますが、それだけではなくて、不法占有のバラック等も加わってスラム化していたわけでございます。



図—9 水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路(1)

その後、県・市のほうで基町の住宅をつくっていただき、そちらに移転いただいて、その後、公園整備が行われたわけでございますが、それとあわせるような形で、私どものほうでこういった環境護岸の整備を行いました。昭和54年から58年にかけての話でございますが、昭和50年代にこういった景観を考慮した整備は非常に画期的であったと思います。

写真を見ていただいておりますように、まさにこういった形で、水と緑豊かな河岸が形成されておまして、市民、県民の方、それから外から来られる方にも親しんでいただいております（図—10）。

それから、今、京橋川と元安川にオープンカフェがございます。これも実は、広島がその第1号でございます。

もともと河川というのは、公共のものであるということから、そういう商売の場としてお使いいた

■水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路



11

図—10 水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路(2)

■水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路



図—11 水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路(3)

だくのは難しかったわけですが、先ほど申しあげましたように、水と緑の環境豊かなところでオープンカフェもいいではないかということで、水の都ひろしま推進協議会、これは行政のほかに観光とか市民団体なども入っていただいています、そういったところが全体をマネジメントするような形で社会実験を始めまして、広島と大阪がこの社会実験第1号で始めたわけですが、うまくいったということで、これが本格的に運用されているということでございます(図—11)。右のグラフにありますように、来店者、店舗数もふえておりますし、また、こういったものが観光客増にもつながっているのではないかと考えています。

また、このデルタ域では舟運も非常に活発に行われているわけですが、ここは、専門の氏原さんもおられますので、また詳しくお話しいただけると幸いです。



図—1 2 水と緑の平和都市・広島の礎となった太田川放水路 (4)

以上でございます。

○佐田尾 ありがとうございます。

先ほどの映像を見て、素人考えでも驚くのは、国鉄と広電の路面電車の線を両方ともつけかえるというような工事は、恐らく後にも先にも、特に後にはないような大工事だったということを痛感します。

それから、昭和 26 年工事再開ということになりますと、この年は連合軍による日本の占領が終わった年ですので、これほど早く再開しているということも、改めて驚かされます。

このあたりは平和記念都市建設法などとも関係があると思いますので、広島戦後のまちづくりと放水路の関係について、山地さんからお願いします。

○松井(代理:山地) 私からは、まちづくりの立場ということで、太田川の役割などにつきまして、少



し歴史も踏まえつつ、その川の利活用について御紹介したいと思います。

この図は(図—1 3)、1780 年代、天明年間の広島市の様子でございます。毛利輝元の広島城入城が 1591 年でございますが、その入城以来、図の中で緑色に示しているところが、干拓などによってまちが広がっていった様子でございます。

江戸時代におきましては、川を使って年貢を輸送したり、上流部の地域から炭やまき、鉄、木材、こうした特産品が、太田川、また、その支流を使って各地へ輸送されていったということございました。

歴史史料を見ますと、1825 年、広島藩で公用船が 208 隻、民間の、「廻船」と呼んでおりますが、民間の船が 6508 隻あったというようなことも言われております。

これが明治期の広島でございます(図—1 4)。近代交通機関が発達する以前でございますが、船の便、舟運でございますが、これが主要な交通機関でございました。

川舟は、その輸送貨物によって名称と構造が異なっていたということでございます。「グリ船」と呼



図—13 城下町廣島



図—14 明治期の廣島

ばれるような船がありまして、これは今の不動院あたりから礫石を運んできた。また、「コエトリ船」というようなものがあってございまして、市街地のふん尿を沿岸の農村に運んだというようなことがございました。

それから、まちの町筋に直接小船を乗り入れるということで、現在の鯉城通り辺り、ちょうど図面の真ん中あたりになります。ここに西塔川というもの、それからその中央からちょっと右手になります。現在の並木通り・じぞう通りの位置に平田屋川という2本の運河がございまして、これを利用して物資の輸送などを行っていたということでございます。

その西塔川を御紹介したいのですが、この写真は西塔川で(図—15)、西塔川は運河として活用されておりました。幅が13間と言われますので、約23メートルになりますが、これぐらいあったということでございます。

今映っておりますこの写真の対岸が現在の広島市役所の位置に当たるようでございます。当時、建物は高等小学校であったということでございます。この運河のそばには土手の道がつけられてまして、この運河に沿って塩屋町とか、西魚町とか、商人町が位置していたということでございます。

この西塔川は、明治の末期に埋め立てられまして、大正元年には電車通りとなりまして今日に及んでいるということでございます。

この写真は、舟運が盛んだった当時の「雁木」と呼ばれるものでございます(図—16)。

写真は横川駅の近くの「楠木の大雁木」と呼ばれているものでございますが、潮の満ち干きで水位差



図—15 西塔川



図—16 楠木の大雁木

が変わることに適応する階段状の荷揚げ場であったというのでございます。

河川の沿岸に立地する商店などは、この雁木を利用して直接物資を倉庫などに搬入していたというようなのでございます。

明治 27 年ごろ、広島に大本営、軍の施設が置かれ、軍都としての性格を帯びてくることとなりました。この図面は大正 7 年当時の図面でございます(図—17)。広島城の位置、中央上の部分に赤く示されておりますのが大本営の置かれたところでございます。

山陽本線、宇品線などの鉄道のほかに、今、赤い線で示しておりますが、路面電車が整備されてまいりました。先ほどの西塔川などの運河は埋め立てられ、舟運から陸上交通へと転換が進みつつあるということがわかります。

一方で、地図中央付近になりますが、水主町(かこまち)というところがございまして、ここには市場が置かれていたようでございますが、昭和 30 年代になりましても総入荷量の 3 分の 1 は船を利用していたということで、このあたりでは舟運はまだ重要な運搬手段として活用されていたようでございます。

こうした中、広島市は、昭和 20 年、被爆により壊滅的な被害を受けました。

これは、復興に向け昭和 27 年に決定した広島平和記念都市建設計画でございます(図—18)。平和記念公園、中央公園、平和大通りのほかに、緑の太い線であらわしておりますが、市内を南北に貫く、河川の美しさを生かすための河岸緑地を計画いたしました。

当時、延長約 12 キロメートルございまして、現在はこの計画をベースに整備区域を拡充、今では計画は約 47.7 キロメートルまで広がりまして、このうち約 26.6 キロメートルが整備済みとなっております。引き続き今後も継続して整備を進めていきたいと考えております。

この写真は京橋川の河岸緑地です(図—19)。河岸緑地という、本市特有の河川美を生かした緑地整備でございます。

これは、戦災復興のときの土地区画整理事業において用地が生み出され、同時に整備を進めたものでございます。そもそもこうした計画が可能となりましたのも、太田川放水路の整備が進むにつれまして、市内の河川の治水安全性が飛躍的に高まったということで、各河川の護岸を冲出ししまして確



図—17 軍都広島



図—18 広島平和記念都市建設計画



図—19 京橋川の河岸緑地



図—20 花と緑による河岸緑地の修景

保できた用地に公園や遊歩道を整備し、これにより豊かな緑の空間を確保できたことによるものです。

河岸緑地には、散策道などの整備のほか、市民の皆さんが花による修景を行うなど、水辺がさまざまな形で彩られまして、より一層市民に親しまれる空間となっております（図—20）。

デルタ市街に住む市民にとって、この河岸に連続したグリーンベルトは、散策、通勤、通学などにも活用され、日常的な憩いのスペースとなっております。

このように、広島の水は、江戸時代においては船で物資を運ぶという交通手段として欠かせないものでございましたけれども、現在その役割はおおむね終わり、広島という都市の重要な構成要素としては、市民の憩いの空間となっております河岸緑地と一体のものとしてまた活用することが求められているということがございます。

具体的な利活用、それから、これからどうするということにつきましては、事例を含めて、後ほどまたお話をさせていただければと思います。

以上でございます。

○佐田尾 ありがとうございます。

舟運の話が今出てまいりました。太田川が舟運のルートでもある時代ということをお話されたと思います。

現在は、その舟運にかわって、例えば雁木タクシー、水上バスが非常に活用されている時代に入りました。そのあたりのお話を氏原さんからお願いいたします。

○氏原 氏原でございます。こんにちは。



私たちは、雁木タクシーという小型ボートの運航を柱としまして、水辺のまちづくりを目的に活動するボランティア団体でございます。このすばらしい水と緑にあふれた、まさに「水の都ひろしま」、この川が私たちの活動の舞台です（図—21）。

私自身は実は長野県出身でして、南アルプスと中央アルプスという3000メートル級の山に囲まれたところで育ちました。たまたま夫の転勤で広島に来たときにこの川に出会いまして、そのすばらしさに本当に魅せられました（図—22）。



図—2 1 水と緑あふれる街



図—2 2 水の都ひろしま

縁がありまして、国・県・市が策定されました水の都構想づくりに市民の声を反映するというワーキングスタッフとして参加いたしました。

そのときに、「水の都」と言うならば、こういう生活をしたいね」ということで、参加している市民の皆様からアイデアを募りましたところ、圧倒的多数で支持されたのが、「手を挙げて水上バスをとめてみようという」アイデアでした。

計画だけでなく、せっかくだからそれを実現したいということで、そのときにワーキングスタッフとしてかかわった仲間と、そして水辺をこよなく愛する市民の仲間と一緒に NPO 法人雁木組を立ち上げました。平成 16 年のことです。

実際に水上交通を復活しようとするのと、課題だらけでした。まず、日本で川の水上タクシーを正式にやっているところがなかった。本当に何もかもわからないところからでした。

満潮・干潮がありますので、満潮のときには船が橋につかえる、干潮のときには底をすってしまう、乗りおりをする栈橋が二つしかないという状況で、それでも、インフラ整備に頼ることなく、今ある資源を活用して、できることから始めようとして始めたのが雁木タクシーです。

そして着眼したのがこの雁木でした。もう皆さん御承知のとおり、かつて船着き場として、あるいは生活の場として使われていた階段状の護岸です（図—2 3）。私たちがこれを調べましたところ、新旧含めて約 400 カ所の雁木があることがわかりました（図—2 4）。



図—2 3 雁木



図—2 4 いたるところにある雁木

雁木はまちの至るところにあるわけですから、これを船着き場として活用すれば街を行き来することができます。「水上バスをとめてみよう」という市民の夢の意図は、気軽に船に乗ることができるということを表していると思うのですが、雁木の活用によりそれを実現することができます。

「雁木タクシー」という名前も、「へい！タクシー」と、気軽に呼んで、いろんなところで乗りおろしできると面白いな、という思いでつけた名前でございます。

雁木はいろんな形状がありますが、この13年間でいろんな場所で着岸をし、ノウハウを蓄積しまして、今、約50カ所で乗り降りをしております。

雁木タクシーの運航状況を簡単に説明いたします(図-25)。

この小型ボートは、7人乗りの船2艇で運航しております。お金がなかったため、船の購入に当たっては、市民のオーナー、「雁木メイト」というのを募りまして、約200名の方に支援をしていただきました。

観光利用のほか、まちのイベントでも運航しております。一番人気があるのは、広島駅、縮景園、京橋オープンカフェと、平和公園を結ぶコースでございます(図-26)。13年前からこのコースを運航しています。約6万人の方が乗船されました。6万人というのは、水上交通としては、「それって一ヶ月の数字ですか」と言われることもあるのですが、13年間の数字です。この数字、私は、僭越ながら、本当に立派な数字だと思っております。

きょうも船長がここにいますが、例えば平日、たった二人の予約のお客さまのために、地現船長は、佐伯区から車で吉島のボートパークまで来て、そこから船の安全点検をして、回航して、広島駅でお客さんをお乗せして、そこに陸上をアシストするボランティアスタッフも参加し(図-27)、

雁木タクシーの運航状況

- ・小型船舶(7人乗り)2艇にて運航
- ・船の購入は市民オーナーを募った。(約200名)
- ・観光利用のほか、街のイベントでも運航
- ・利用できる雁木は50ヶ所



もっと水辺が活気になる。

図-25 雁木タクシーの運航状況(1)

雁木タクシーの運航状況

- ・広島駅や縮景園と平和公園を結ぶコースが人気、
- ・12年間で約60,000人が乗船



もっと水辺が活気になる。

図-26 雁木タクシーの運航状況(2)

雁木タクシーの運航をサポートするのは、ボランティアスタッフ



もっと水辺が好きになる。

図-27 運航をサポートするボランティアスタッフ

30分で平和公園にお届けして、また吉島に帰っていくということを一人一人丁寧にできております。

商売ではやっていないのですけれども、それでもお客さんの笑顔と喜んでいただく姿が私たちのやりがいでもあります。お客様からも、「とても楽しかった」「いい風景だった」という声とともに、「船長との会話がとても楽しかった」という声をいただいております。

私どものスタッフを紹介しますと、約8割がサラリーマンです。ですので、受け入れ態勢としては平日がちょっと弱くて、土日に主に運航しております。船長6人のほかに、陸上で支えるボランティアスタッフがおります。ボランティアといえども、安全にはちゃんと気を配ろうということで、定期的に安全講習会なども実施しております。

ここからは、雁木タクシーから見るすてきな水辺の風景をごらんいただきたいと思います。

(写真)これは京橋川、牛田のあたりです(図一28)。

それから工兵橋の下(図一29)。

これは本川です(図一30)。

こんな姿、こんな遊びに遭遇することもあります(図一31)。



図一28 牛田付近



図一29 工兵橋付近



図一30 本川の河岸



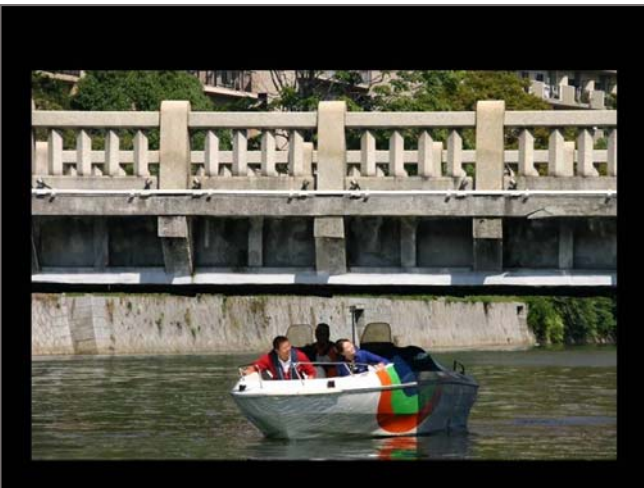
図一31 スタンド・アップ・パドルボード



図—3 2 白島付近の河岸



図—3 3 サギ島とブラタモリの一コマ



図—3 4 京橋の下を行く



図—3 5 雁木の調査

こちらは白島のあたりです（図—3 2）。

5月の連休が終わったころ、ニセアカシアやテリハノイバラの花が満開で、運航していると、とてもいい香りがしてきます。時々カワセミに遭遇することもあります。

こちらは、ちょうどホームテレビの裏でしょうか、サギの島があります（図—3 3）。

これは「ブラタモリ」という番組でタモリさんが乗ったときの写真です（図—3 3）。

それから、広島には個性的な橋がいっぱいあります。満潮のときは京橋をくぐるときにちょっと身体をかがめたり、とても印象に残る体験として喜ばれています（図—3 4）。

こうした雁木タクシーの運航のほかに、私たちは、この雁木を後世に残す取り組みをしています。広島の方々、雁木というものが当たり前のものなののでしょうか、この場の文化財的な価値を見出すことがなかったようです。そこで私たちは、文化財の専門家の力をかりまして、自分たちでこの雁木の調査をいたしました（図—3 5）。

その調査により、京橋川に残っている雁木が、古いものだと明治中期から昭和の初めにかけて築造されたものであるということがわかりました。この調査をもちまして、県の協力もありまして、土木学会の選奨土木遺産に指定していただきました。

私たちはこれを土木遺産として残すのではなく、どんなふうに使われていたのかということを残すことこそが水の都だと考えています。

使ってみると、雁木は先達の知恵と技術と工夫の集積だということがわかります。船長が、何度も何度も着岸しているの、その機能的なすばらしさは一番わかっていると思います。

こちらの写真は本川橋の舟つなぎ石です（図—36）。

私たちは、運航するにあたって、舟をもちやう場所がないことに気づきました。それで、昔の人たちはどうしていたのだろうと調べたところ、昔は舟つなぎ石がいっぱいあったという話をきくことができました。

でも、一つもなかったのです。

また、「昭和50年までは本川橋のたもとにあったよ」ということを聞き、川底を探してみたところ、右の写真のように100メートル下の川床に埋まっているのを見つけ、石職人さんの力を借りて、復原しました。

ちょっと崩れていたこの小さな護岸、犬走りですが、これも、地元の方に聞いたら、家に帰るためにはここを通らなければいけなかったというようなお話をいただきましたが、こうした修復作業などもしました。

「文化財」とは、国や自治体が決めるものではなくて、地域の人が「これが大切だ」と思い、そこに文化的価値を見出せば、それが文化財だと聞いたことがあります。

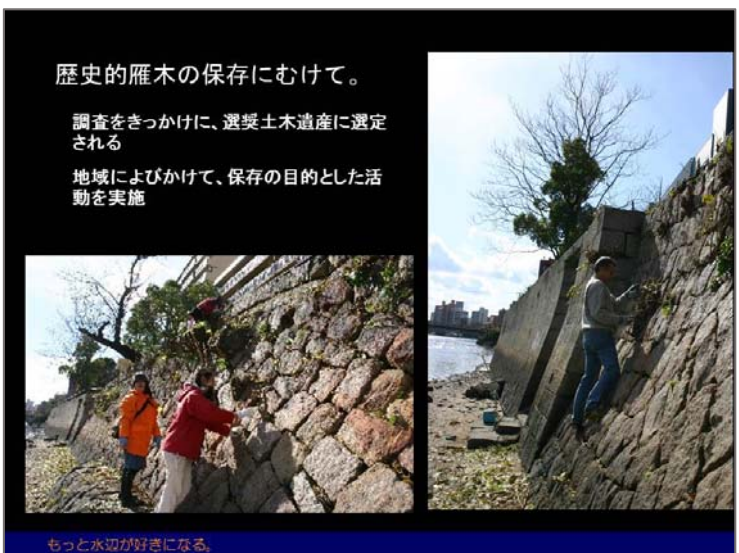
私たちだけが「雁木」「雁木」と騒いでいても仕方がないので、この京橋の地域の皆様にお声がけをしまして、今、年に1回、これを保全する活動をしております（図—37）。

また、この雁木で、夜に「水辺ジャズ」というイベントをしまして（図—38）、皆さんにこの雁木のすばらしさを知っていただくという取り組みもしております。

こういう取り組みができるのも、そして幾つもの雁木が残っているのも、放水路が



図—36 本川の舟つなぎ石



図—37 雁木の保存活動



図—38 水辺ジャズ

できたおかげなんだなということを、本日、あらためて強く感じる次第でございます。

○佐田尾 ありがとうございます。

海のない信州のお生まれの氏原さんが雁木組をここまで育てられたことにかねて敬意を表しているところですが、最近、よそから来る人に、あるいは知り合いに雁木のことを説明すると、「あ、「ブラタモリ」で紹介していたやつだな」というので、すぐ反応があるので、説明が非常に楽になりましたけれども、まだまだこの雁木というのは奥が深いということがいろいろわかりました。

それでは、次は佐々木さんをお願いします。

先ほどの話で、年間 100 日は海に出ている、本業が漁師ということを言われまして、真に受ける人がいると困るのですけれども、佐々木さんは、御自分の実家の工場が放水路の工事で移転されたり、あるいは太田川に子供のころから親しんでおられたというところから、個人的な体験あるいは市民としての感想、こういったことをお願いいたします。

○佐々木 皆さんと違って、私は水に関してのプロでもありませんし、きょうここに呼ばれたのも、徳元所長からのたつての願いで出てきました。



どういう立場かと言いますと、私は実は大芝小学校、中広中、基町高校と、本当に地場で生まれ育って、実は実家が放水路のすぐ近くでした。

ですから、物心ついたごろからシジミ掘り、ハゼ釣り、あとは、当時は太田川放水路で花火大会をやっていました。

野球をする、遊ぶというと、とにかく放水路のグラウンドでということで、私の郷土愛はこの放水路、太田川とともに育まれたのではないかと思うと同時に、先ほどの己斐小の小学校 4 年生の皆さんも間違いなく放水路のグラウンドや親水公園でいろんな学習をしたりイベントをしたりすると思うのですが、彼ら、彼女らにも太田川放水路とか太田川をもととした郷土愛が間違いなく育まれたということを感じました。

実は私どもオタフクソースも、太田川とは切っても切れない関係にあります。

創業は西区横川というところで、酒と卸の卸商をやっていました（図—39）。

造り酒屋ではなく、あわせ酒屋と言いまして、いろんな蔵元から酒を買ってきて、創業者は大変味覚のすぐれた人間だったらしく、この「水都花」という、各蔵から買ってきた酒をあわせておいしい酒をつくっていました。

創業からの概略

- 大正11年：酒・醤油の卸小売業『佐々木商店』を横川で創業。
- 昭和13年：醸造酢の製造を開始。
- 昭和20年：原爆により全てを焼失。

[水都花]ブランド
七つの川からの命名

図—39 創業からの概略(1)

創業からの概略

- 昭和21年：祇園長東の酒蔵を借りて再開。
- 昭和25年：ソースの製造を開始。

図—40 創業からの概略(2)

その酒の名前を「水都花」と書きますが、これはやはり太田川の、当時は七つ川があったらしいのですが、その川の命名をさせてもらったというふうに聞いています。

その後、戦前、昭和 13 年から醸造酢の製造を開始したのですが、残念ながら、昭和 20 年、当時横川にあった酒蔵が全て焼失しました。

その後、祇園の長束というところで酒蔵を借りて酢づくりを始めまして（図—4 0）、始めたのはいいのですけれども、先ほどありましたように、放水路の工事が始まりまして、また移転を余儀なくされました。

横川から長束に行き、長束からまた、放水路の工事ということで、西区の大芝というところに工場を移転しました（図—4 1）。

ソースをつくり始めたのは戦後、昭和 25 年からですが、これも、戦後、重工業が盛んで、焼け野原に鉄板がたくさんあったからです。それとアメリカ軍の供給物資メリケン粉が出会ってできたのが広島のお好み焼きですが、屋台ででき始めたお好み焼きと同時に当社のソースもつくられ始めたというのが手前どもの歴史です。

ただ、先ほどありました昭和 27 年、太田川放水路工事により、西区の大芝に移転しました。それまでは、当社の社名は「オタフク造酢」でした。昭和 50 年に「オタフクソース」に社名変更したのですが、これはカープの初優勝した昭和 50 年です。

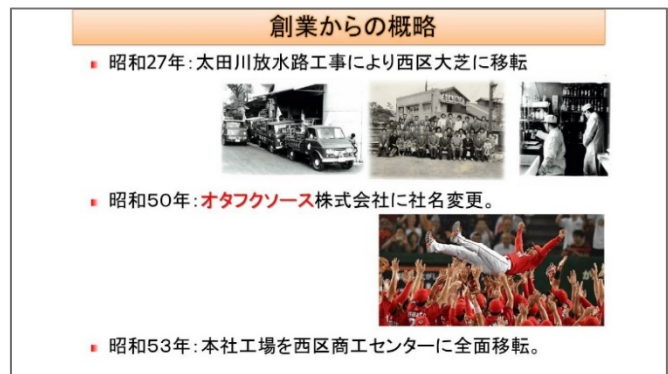
なぜかと言うと、カープが全国的にブームになって、それと同時に好み焼きも取り上げられて、酢とソースの売上が逆転したのが昭和 50 年ということで、社名変更を余儀なくされました。

当社は、時代とともに、いろんな環境の中で社名とか住所とかを変えてきた会社です。その後、大芝から西区の商工センター、現本社工場がある商工センターに移転して現在を迎えています。

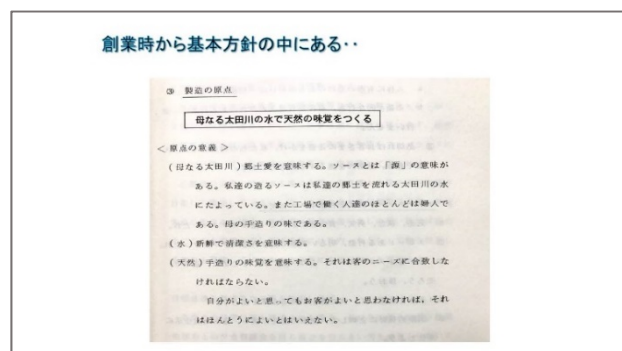
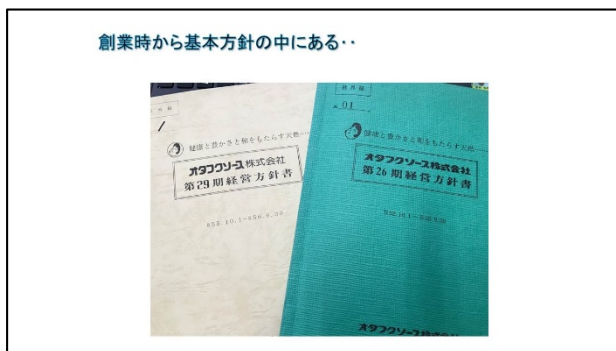
ただ、手前どもは、創業のころから、この太田川とは切っても切り離せません。酒をつくれれば「水都花」という命名でしたし、私どもの創業当時から製造の原点は「母なる太田川の水で天然の味覚をつくる」ということでした（図—4 2）。

太田川の水というのは、軟水で、全国的にもおいしい水という評価をいただいています。そういった面では、当社の原点は「母なる太田川の水で天然の味覚をつくる」ということです。

ただ、残念ながら、20 年ちょっと前から工場が広島だけではなくて、今、国内に 3 工場、海外にも 3 工場あるものですから、太田川の水で全部つくっているわけではないということになりまして、今



図—4 1 創業からの概略(3)



図—4 2 創業時からの基本方針

では「天然の資源で」ということで、「母なる太田川」のところを「豊かな自然」ということに書きかえて今に至っております。

ということで、当社は、場所もそうですし、原料由来もそうですし、太田川なしにはなし得ない会社ということがわかっていただけたと思います。それぐらい、手前どもにとって、この太田川、太田川放水路は重要な役割を担ってきたということです。

きょうの私の立場は、一市民、一企業としてのケースとして聞いていただけたらと思っています。とりあえず以上です。

○佐田尾 ありがとうございます。

ソースは「源」ということで、後半また、より深い話をまた聞かせていただこうと思います。

それでは、竹村さんから、やはり太田川と広島のマチの関係について、国内の事例あるいは海外の事例を交えてお話をお願いしたいと思います。

○竹村 私は、30年前に当時の中国地建、建設省に勤めまして、広島に1年弱いました。それ以上は



縁がないのですが、日本全国、また、海外へよく行っています。特に、日本全国では10カ所ぐらいで生活しました。単なる出張でなく、転勤、転勤の繰り返しでした。そのため、全国的な広い目線で太田川を見ることができます。その観点からお話をします。

これはセーヌ川です(図-43)。セーヌ川の真ん中がパリです。セーヌ川は大きな川でして、フランスのパリは陸地の中にあります。だから、フランスは「陸の帝国」と言われています。

これはテムズ川です(図-44)。テムズ川は、この図ではわかりにくいのですが、ここがロンドンです。テムズ川というのは、長さはありますが流域は小さい。昔、島全体に氷河が載っていて、それがずるずると岩盤を削っていった氷河川です。ロンドンのテムズ川は全部海だと思ってください。

これはニューヨークのハドソン川ですが(図-45)、これも大昔、岩盤を氷河が削りました。氷河期から暖かくなっていく時期に、ずるずると



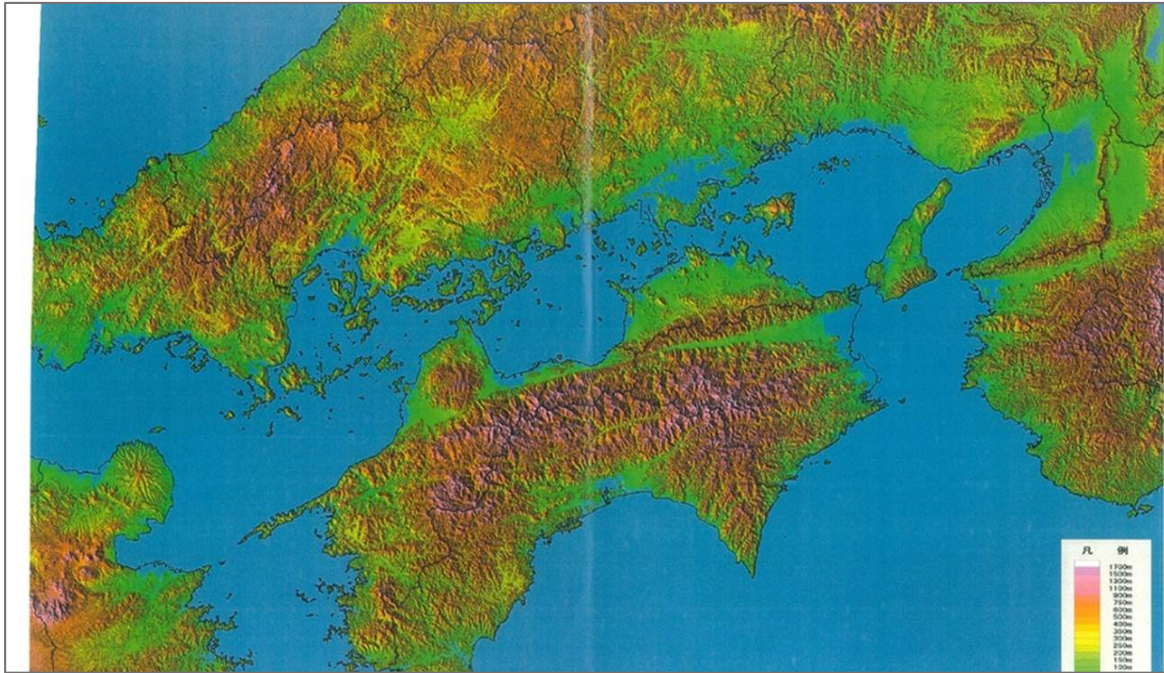
図-43 セーヌ川(パリ)



図-44 テムズ川(ロンドン)



図-45 ハドソン川(ニューヨーク)



図—4 6 海面が5m上昇した場合の地形図

氷河が削った。ハドソン川もニューヨークも河口にあります。ハドソン川も海だと思ってください。

世界の三大都市のうち、フランスは陸の真ん中にあります。テムズとハドソンは河口にあつて、イギリスとアメリカが「海の帝国」だと言われるゆえんです。

いよいよ太田川です。

これは、ちょっとおかしな図面です(図—4 6)。中国・四国地方の海面を5メートル上げています。コンピューターだからこういうことができるのです。

地理院のデータで海面を5メートル上げてしまうと、広島はありません。海です。岡山もありません。海です。徳島も、見てください、海です。和歌山も海、大阪も海です。5メートル上げただけで海になってしまう。

つまり、6000年前の縄文前期は海面が5メートル高かったのです。それを再現すると、縄文時代には、広島、岡山、徳島、和歌山、大阪はまだなかったのです。

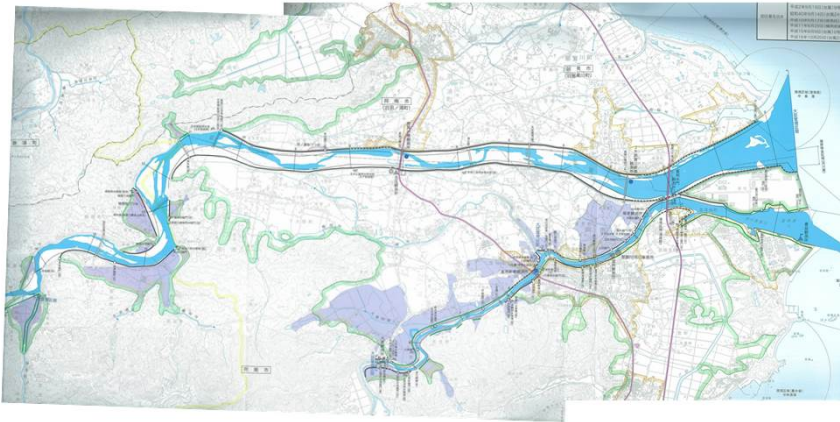
さて、これは、広島ではなくて、アメリカのアラスカにある国立公園の川です。山から出た水が一気に広がって、デルタになっています。河川がデルタでわーっと広がるのがわかりますね(図—4 7)。

川の水が一番弱いところを狙って流れていきます。砂がちょっと貯まると、今度は違うところへ行こう。こっちが貯まると、じゃ、こっちへ行こう。このように何百万年、何千万年も川を形成していきます。ともかく、乱流しています。水があちこちに流れます。



図—4 7 アラスカ トリカキラ川のデルタ

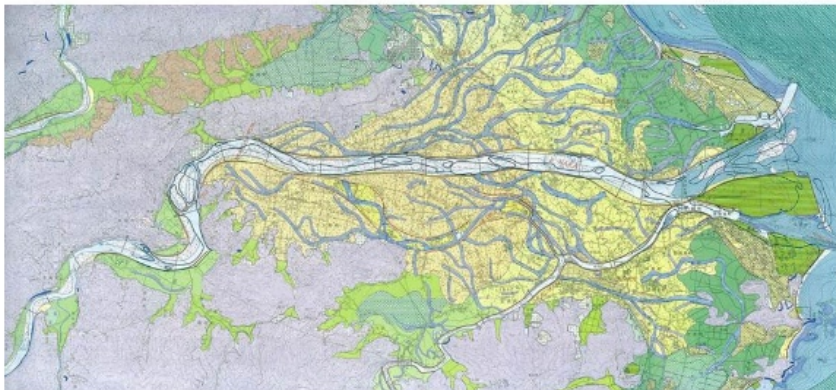
那賀川 河川管内図



出典：四国地方整備局
那賀川河川事務所

図—48 那賀川河川管内図

那賀川流域水害地形分類図



出典：建設省四国地方建設局
細川内ダム工事事務所

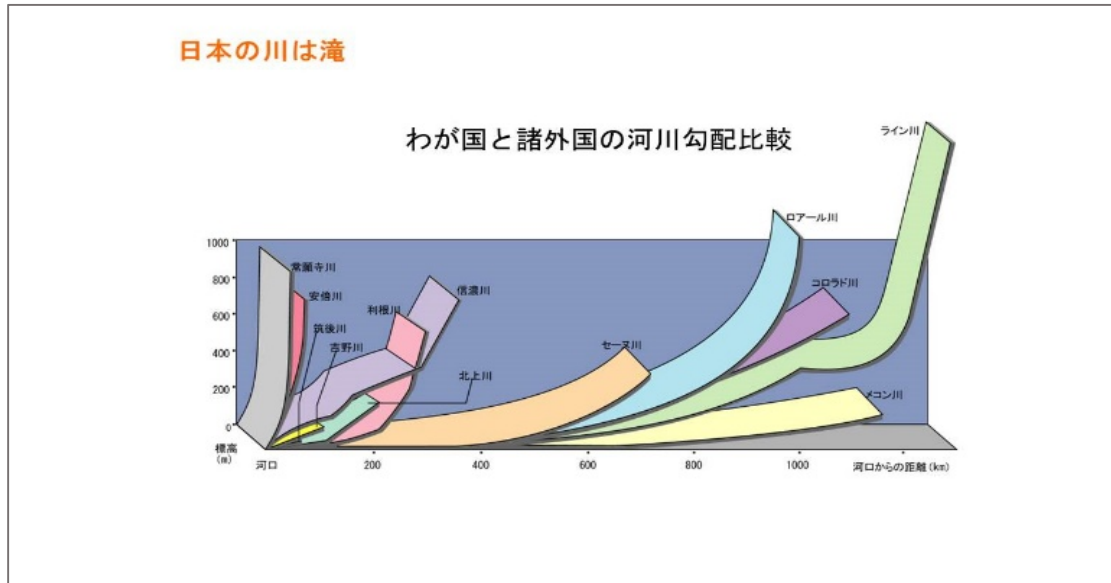
図—49 那賀川流域水害地形分類図

徳島県に那賀川という川があります。東に向かって流れている一級河川です。これが、四国地方整備局の那賀川河川事務所がつくった河川管内図です（図—48）。よくありますよね、「直轄の堤防はこうです。うちをここを管理しています」というあれです。ここの事務所はとてもおもしろいことをやりました。一皮むいてしまったのです。

というのは、自分たちの足元にはヤマタノオロチが住んでいる。自分たちの川はヤマタノオロチの上につくられた。そのことを地質調査で調べたのです（図—49）。

この乱流していた川が、いつ堤防になったのかと言うと、江戸時代です。

99.9%の川の堤防は江戸時代につくられたと思ってください。堤防強化とか拡幅とかはしています。



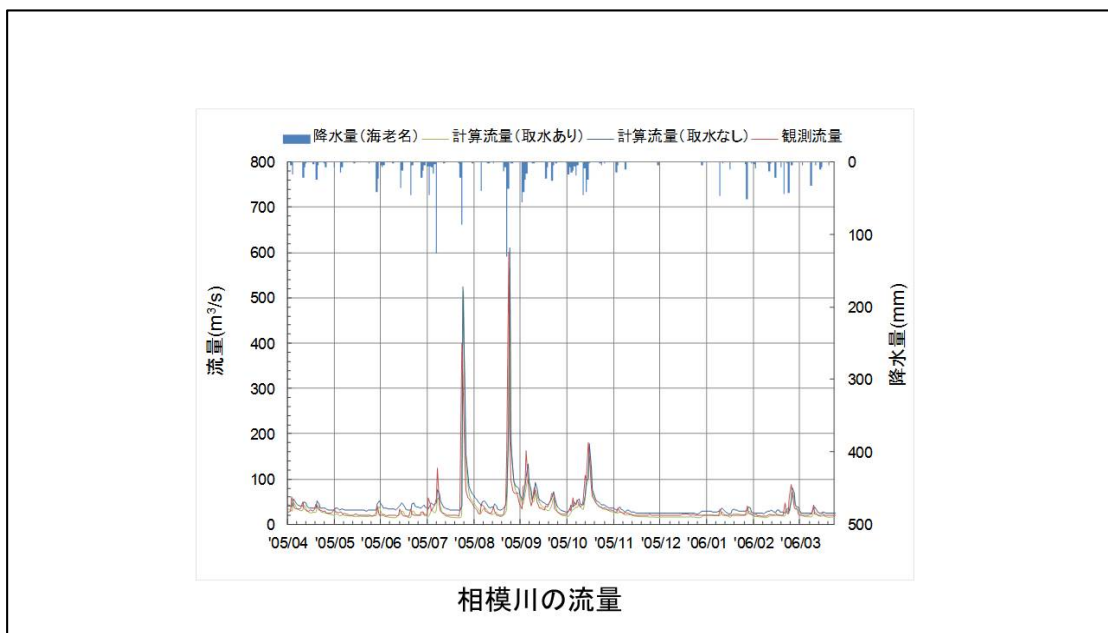
図—50 わが国と諸外国の河川勾配比較

基本的には川は全部、江戸時代の人たちが造ったのです。ヤマタノオロチを、堤防の中に押し込んでしまったのです。強引に、すごい力で押し込んでしまった。

なぜ押し込んだのか。それは、戦国が終わって、平和な江戸時代になったとき、豊かになりたいということで、みんなで力を合わせてこのヤマタノオロチを退治したのです。ヤマタノオロチを1本の堤防の中に押し込んでしまったのです。だから、川は結構無理があるのです。

日本の川は、一番左側にありますように、滝のようです（図—50）。こちらの右側のほうが世界の川で、普通の川です。日本の川は、ダムがなければ、上流に降った雨は一泊二日ぐらいで海に戻ってしまうのです。

これは手元にあった相模川という、神奈川県の水の流量です（図—51）。1年間通してみても、大体、8月とか9月の台風でどーんと流れる。あとは流量のない普通の川です。日本の川は、この一気



図—51 相模川の流量

にくる大洪水に抵抗しなければならない。

ヤマタノオロチが住んでいたところを、広島のように、堤防の中に押し込んでしまったのです。

これは最近の広島です（図—5 2）。

太田川放水路があります。放水路がないとすると、ほかの川はどうなるか。洪水から守るために、堤防を高くしなければいけない。わかりますね。広島の太田川放水路は近代になってからできた川です。

近代になってできた大きな川は、日本で二つぐらいしかない。荒川放水路と太田川放水路です。太田川放水路は近代になってつくられた珍しい川なのです。

この太田川放水路がないと、昔あった元安川などで洪水を流さなければいけない。どのくらい堤防を高くしなければいけないかというと、この間、試算してみたのですが、2.8メートルです。あと2.8メートル堤防を高くしなければいけない。

これが荒川の堤防です（図—5 3）。高いでしょう。

これは大阪の淀川の堤防です（図—5 4）。人々の家は堤防のずっと下にあります。2.8メートル、3メートル近く堤防を上げるというのはこういうことなのです。

これは淀川の堤防です（図—5 5）。すごい塀でしょう。用地がないところでは、こういうことをせざるを得ない。

この太田川放水路がなかったらどうなるか。こういう塀をつくらないと、広島の街の安全は守れないのです。

皆さんは堤防に邪魔されなく太田川を見ることができでしょう（図—5 6）。これはすごいことなのです。太田川放水路があって初めて太田川と広島市民が一緒になれるのです。これは珍しい、稀有な例なのです。

皆さんはどこにでもあるように思いますけれども、先ほど言ったニューヨークとかロンドンでは、あれは海の水で、川ではないのです。



図—5 2 太田川デルタ鳥瞰図



荒川堤防

図—5 3 荒川堤防



淀川堤防

図—5 4 淀川堤防(1)



淀川堤防

図—5 5 淀川堤防(2)



図—5 6 原爆ドームと元安川

上流から襲ってくる大きな洪水を安全に流し、なおかつ巨大な堤がないまちは、日本ではめったにありません。

政令指定都市では広島と仙台ぐらいかな。

仙台はなぜかと言うと、高台にあるのです。伊達政宗公が高台につくった。だから堤防がないのです。

政令指定都市で市民が、洪水に対応できて、きれいな川と接していただけるのは、この太田川放水路のおかげなのです。

これが太田川です。

今後の太田川をどうしたらいいのかは、また後ほどお話しさせていただきます。

○佐田尾 ありがとうございます。

もし放水路がなければ高さ 2.8 メートルの刑務所の堤のような堤防を建てなければいけないというお話で、先ほど原爆ドームの横にそのような堤防があったら、世界遺産の要件にもかかわるようなことになると思いました。

それでは、後半ですが、太田川のこれからについてまた議論を進めてまいりたいと思います。

まずは、防災といいますか、安全・安心という観点から、徳元さん、お願いします。

○徳元 前半で、この広島のまちにこの 50 年間洪水による被害がなかったというお話もいただきましたが、これから今後 50 年間、同じように洪水による被害が起こらないかと言うと、そうとは限らないというお話をさせていただきたいと思います。

ここ数年、全国各地で大雨による被害が相次いでおります。

ここ広島でも 4 年前に 3 時間で 200 ミリぐらいの雨が降りまして、土砂災害によって 70 人余りの方が亡くなるという被害が出ました (図—5 7)。



図—5 7 平成 26 年広島土砂災害



図—5 8 平成 27 年関東・東北豪雨



図—5 9 平成 29 年九州北部豪雨

それから、平成 27 年には関東・東北豪雨がありました（図—5 8）。これは、鬼怒川の堤防が決壊いたしまして、非常に広範囲で浸水するという被害が出ましたが、鬼怒川の上流域、これは日光とか、今市とか、ああいうところでございますが、ここでは 2 日間で 400 ミリから 600 ミリぐらいの雨が降ったということでございます。

それから、去年は九州北部でまた大雨による水害・土砂災害がございました（図—5 9）。福岡県の朝倉市、それから大分県の日田市、このあたりで大きな被害が出たわけでございます。

このあたりでは 24 時間で 400 ミリから 600 ミリぐらいの雨が観測されておりますが、これは実際観測された値でございます、レーダー等の解析雨量では 1000 ミリぐらい雨が降ったところもあると言われております。

私どもも、洪水の被害を防ぐために、計画的にハード対策をやってございます。

これは、平成 23 年 5 月ですから、今から 7 年前につくりました太田川水系の河川整備計画の概要を示したものでございますが、その平成 23 年の時点から今後おおむね 30 年間にどういことをやっていこうかというものをこの計画に盛り込んでおります（図—6 0）。

ただ、この河川整備計画に盛り込まれている事業が全てできたとしても、対応できるのは、先ほども



図—6 0 太田川水系河川整備計画

効果のところでも少し見ていただきましたが、戦後最大の平成 17 年の洪水と同じ洪水が起こったとして、その浸水被害をなくするという程度のものでございます。

例えば下流域はほぼ洪水対策は終わっています。少し一部で川底を掘らないといけないところがあるのですけれども、放水路ができておりますので、基本的に洪水対策は終わっているとお考えいただければいいです。

ただ、平成 3 年とか平成 16 年にこの河口近くで高潮による浸水被害がたくさん出ておりまして、高潮ですから、海面が上がってくるわけですから、これは堤防を高くして守るしかないわけでございます、今、その高潮対策をやっております。

あと、主には、可部のほうを流れております根谷川とか三篠川、こういったところの洪水対策とか、それから、可部から戸河内にかけての中流部ですが、ここは平成 17 年の洪水で大きな被害が出たところでございます、対応をずっと進めてまいりまして、去年この対応は終わっております。

こういった事業を今後やっていこうとしているわけでございますけれども、これで対応できるのは、繰り返しになりますけれども、平成 17 年と同じ雨、これが実は 2 日間で 240 ミリという雨でしたが、こういったものにはしか対応できない。先ほど言いましたように、近年は 2 日間で 400 ミリ、500 ミリといった雨が当たり前に降るような時代になってきております。

さらに、長期的な計画で言いますと、太田川では 200 年に 1 回の雨に耐えられるようにという計画を持っております。これは 2 日間で 396 ミリといった雨でございます。

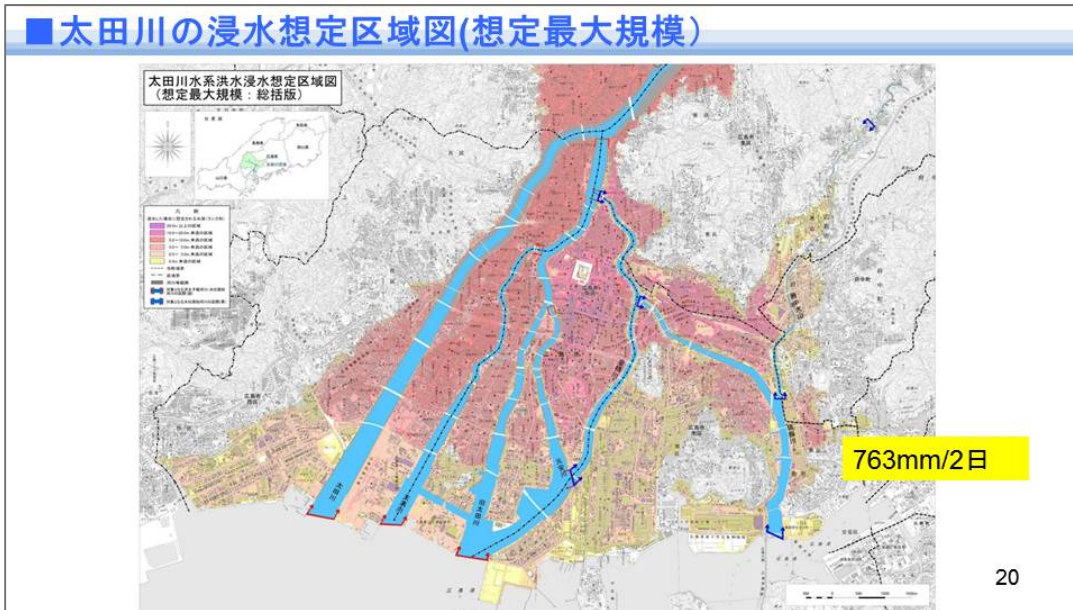
先ほど言いましたように、今は 2 日間で 240 ミリ対応でございますので、今この 200 年に 1 回の雨が降ればどうなるかと言うと、このデルタ域でも着色したあたりで浸水が生じるということが想定されております（図—6 1）。

さらに、この太田川の流域で起こりうる最大の洪水を想定すると。これは 2 日間で 763 ミリという雨でございますが、この雨が降りますと、ごらんのように、デルタ域はほぼ全て浸水するといったことになるわけでございます（図—6 2）。

そのときのシミュレーションの少し細かいのを見ていただきますと、この近くの鯉城通りでございますが、堤防が切れて 3 時間後には 1.5 メートルぐらい、それから 5 時間後には 3.5 メートルぐらい



図—6 1 太田川の浸水想定区域図（200 年に 1 度の降雨）



図—6 2 太田川の浸水想定区域図 (想定最大規模)



図—6 3 想定最大規模の洪水による浸水想定

浸水するというシミュレーションの結果も出ております (図—6 3)。

私どもは、最初にも申し上げましたように、引き続き堤防とかそういったハード整備は続けていくわけですが、そのハード整備をやっていくには時間もお金もかかります。

そういうのをやっている間に大きな洪水が起こらないとも限らないわけですので、今、私どもは、このハード対策だけではなくて、ソフト対策を併用した対応を進めております。

太田川におきましても、逃げおくれゼロ、それから社会経済被害を最小にするといったことを目標にソフト対策を一体となって進めているわけですので (図—6 4)。

その一つの例といたしまして、これは防災行動計画でございますが (図—6 5)、縦軸に時系列が入っていて、上から順番に下に行くにつれて時間がたつと思っただけであればいいのですが、例え

■ハード対策とソフト対策が一体となった取り組み

太田川水系河川整備計画に位置づけられる事業の早期完成に向け事業推進を図りつつ、大規模水害に対し、地域別の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。

- ※大規模水害 ……計画規模の降雨等による洪水氾濫による被害
- ※逃げ遅れ ……立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態
- ※社会経済被害の最小化 ……大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

22

図—64 ハード対策とソフト対策が一体となった取り組み

■逃げ遅れゼロを目指したタイムライン(防災行動計画)のイメージ



図—65 逃げ遅れゼロを目指したタイムライン(防災行動計画)のイメージ

ば台風ですと、最近は何日後にどのあたりにどれぐらいの台風が来るというのがある程度予測できるようになっておりますので、その台風が来て災害が発生するというを前提に、防災関係機関が連携して、災害時に発生する状況を早めに想定して、共有して、いつ、誰が、何をするかということに着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理する計画をつくっていきましょうということで、この太田川の流域でも昨年11月に、県、市、それから関係のインフラ機関等々の皆様とこの検討会を立ち上げてまして、ことしの夏ごろを目標にこれの試行版をつくっていきたいということで、こういったソフト対策の取り組みも並行してやっているとございます。

以上でございます。

○佐田尾 ありがとうございます。ただいまは大規模水害に関して、ソフト対策について触れていただきました。

それでは、竹村さんにお伺いします。そういうソフト対策も関係あると思いますが、人が、特に子供

たちが例えば太田川に親しむというような視点を含めて、アイデアをお聞かせいただければと思います。

○竹村 先ほどこの写真をお見せしました（図—56）。

皆さんは当たり前のように思っていますが、市民が生活する中で流れている川が、満潮のときは水がいっぱい流れ、干潮になるとこういう干潟が出てくるというのは、とてもおもしろい街なのです。

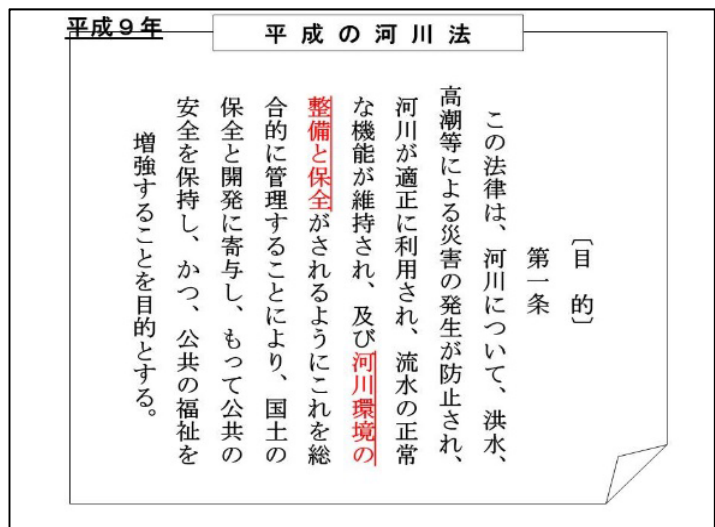
皆さんは当たり前には思っていますが、満潮と干潮が目の前に登場してきて、自分たちがそれを見れることはとても貴重だと知ってください。

河川というのはいろいろな歴史があります。現在の河川法は、目的として洪水・高潮等による災害の防止という「治水」、そして河川が適正に利用されるという「利水」、それに、平成9年に河川環境の整備と保全という「環境」が目的に加わりました。

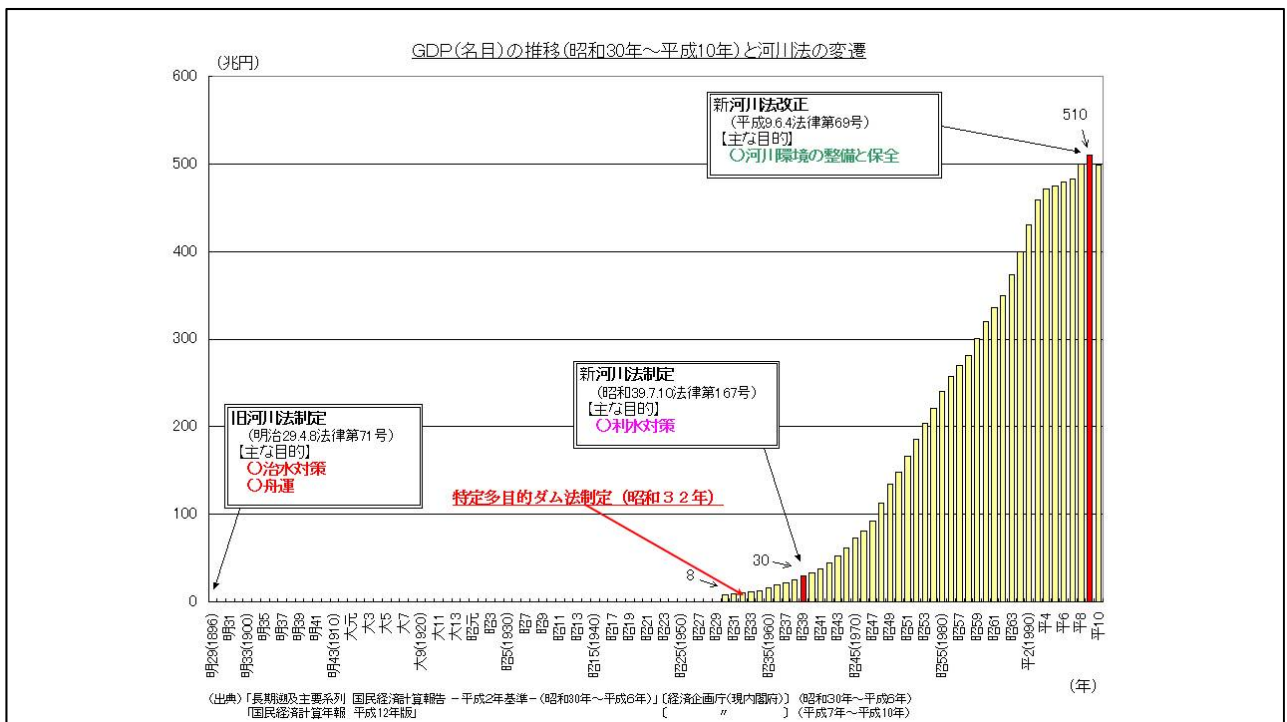
平成9年、この河川法の第1条に加わったのです（図—66）。河川法の第1条は2回変わっているのです。

これは、縦の棒グラフはGDPです（図—67）。明治にできたときに、GDPはほとんどなかった。

明治にできたときは、河川法の目的は洪水と舟運だった。昭和39年に「利水」が入りました。「治水」と「利水」の目的になったのです。



図—66 平成の河川法



図—67 GDP(名目)の推移(昭和30年～平成10年)と河川法の変遷

そして今度は、平成9年に「環境」を入れたのです。「治水」「利水」「環境」の三本柱になりました。

このとき各省から、特に当時の大蔵省から物すごくしかられました。「何で河川法の第1条目的に「環境」を入れるんだ。「環境」を入れる具体的な効果は何なんだ。答えてみる」と質問がされたのです(図-68)。

「治水」と「利水」は、目的がはっきりわかって、「こういう効果があります」と言える。

きょう、太田川放水路は9600億円の価値がありましたね。すごい価値があった。今までだけです。これからも永遠に価値が発揮されます。この太田川放水路の治水はお金に換算できます。

「利水」も、何万人の方々が水を飲めるダムをつくったと、お金やGDP等であらわせます。しかし、「環境」を目的に入れたときに、「環境」というのはそういう評価ができない。

評価できないものを、河川法の第1条に入れる説明をせよ、と怒られたのです。

日本の国土保全の基本法である河川法は、2回も第1条の目的を変えた。明治から始まった法律が、第1条を2回も変えたのです。

昭和39年に「利水」を入れて、見事に日本の高度成長を達成しました。39年に「利水」を入れたことによって、河川法が日本の高度成長に実に見事に貢献した。

平成9年の当時、私は課長だったので、河川法に「環境」を入れて、これからの河川の目的は「環境」だと主張したわけです。

大蔵省(今の財務省)は、「環境目的の効果は全くわからない。環境が大事というのはわかる。だから、環境を配慮した事業をやればいいじゃないか」と言われました。だから、「環境」は配慮事項にしろと言われたのです。

僕たちは、「いや、だめだ。環境そのものが河川の目的だ」と主張しました。これは全然違うのです。環境を大事にしてダムをつくろう、環境に配慮してダムをつくろう、環境に配慮して堤防をつくろうではないのです。環境そのものが河川行政の目的なのです。ついにそれは入りました。

ですから、それ以降、河川行政はがらっと変わりました。「環境」を入れたことは、河川行政は環境に寄与しなければいけない。

では、どうやって寄与するのか。河川法改正のときは答えられなかったのです。その後、おもしろいデータを入手しました(図-69)。

これは、私が本省の局長のとき、当時の文部省の局長のスピーチを聞きました。「自然体験をしている子供たちは道徳心がいいんだ」それにはデータがあると言うのです。

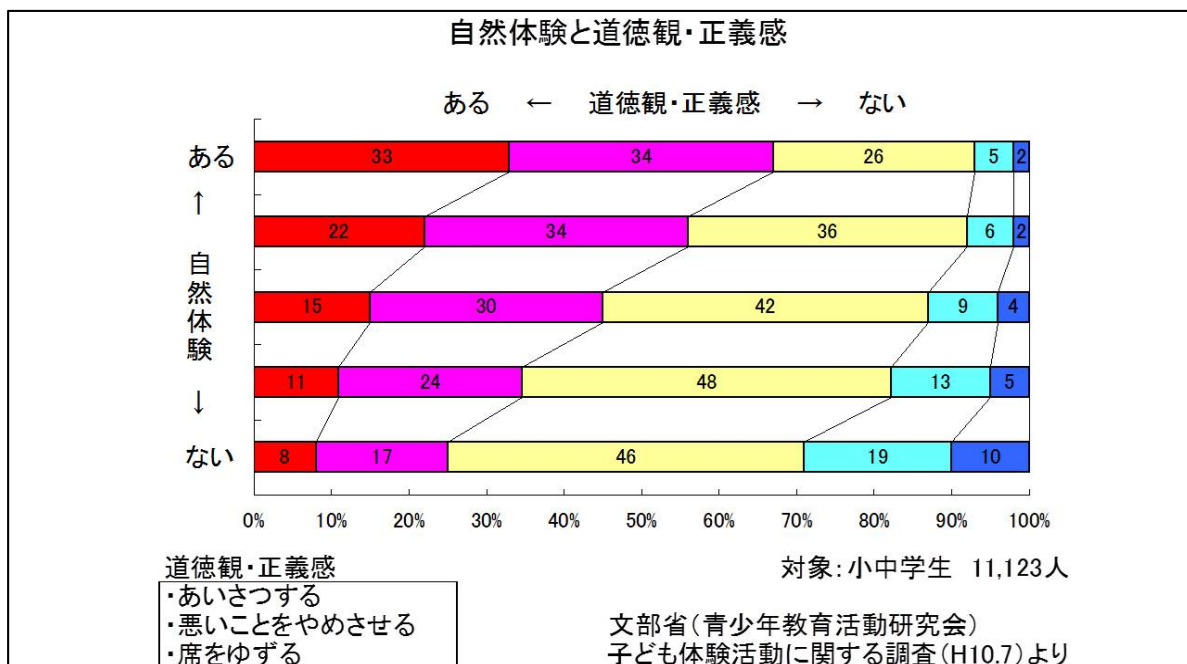
そのスピーチを聞いたあと、その局長をつかまえて。「おい、あんなこと言ったけど、自然に親しんだ子供は本当に道徳心がいいのか」と尋ねたら、「竹村さん、データがありますよ」と言って、このデータを文部省から送ってくれたのです。

これは、文部省が小中学生1万1000人を対象としたデータです。こんなことは文部省でなければできません。1万1000人を対象として5段階評価しました。自然体験をよくやっている、よくやっていないという質問です。1週間に1回川へ行っているのか、5年に1回ぐらい海に行ったとか、自然体

財務省(旧・大蔵省)の質問

- 1、なぜ、目的か?配慮事項で十分である。
- 2、環境目的の具体的効果、機能は?

図-68 財務省(旧・大蔵省)の質問



図—69 自然体験と道徳観・正義感

験のある、ないというのを調べました。

同じ子供たちに、朝起きたときお母さんに「おはようございます」と言うか、御飯を食べるときに「いただきます」と言うか、友達に会ったときに「おはよう」と言うか、電車の中でお年寄りが来たとき「どうぞ」と言うか、単純にそういうことを尋ねました。

文部省は「道徳」と言っているのですけれども、道徳というのはちょっと大げさで、社会規範がいかということ。自然体験をいっぱいやっている子供ほど社会規範が強い。これは、単なる偶然ではなくて、この図は、非常に有意性がある図です。

つまり、自然体験をやっている子ほど社会規範がいいことが明確にあらわれています。

ですから、このパネリスト中では佐々木さんが一番道徳心が高い。というのは、いつも船に乗って自然体験をしています。僕などはほとんどしていない。

そういうことで、子供たちが環境活動をするというのはとても大事なのです。

これから日本を背負っていく子供たちが環境活動をするというのは、そういうことです。

雁木をおりていって、干潟に行く。干潟の場所によって生物が違います。また、いたり、いなかったり、季節によっても違います。干潟に簡単にアクセスできる場所はないのです。まず、皆さんは知ってください。

太田川放水路で己斐の小学生たちがああいいう活動をしているというのはものすごく貴重なことです。あの子達は、礼儀正しい、社会規範の強い、立派な社会人になっていきます。

これは太田川の写真です(図—70)。こういう漁師さんたちが、アサリをとったり、シジミをとったりしている。政令指定都市のど真ん中でこういう姿を見るということはめったにない。



図—70 シジミ採りの風景

「魚というのは、お魚屋さんで切り身で売っているのかな」と子供たちは思っているのです。そうではなくて、こういうところからヤマトシジミ、アサリ、そして小魚がとれていくことを目の当たりにする。それが貴重な空間なのです。これからお願いしたいことは、この干潟で、水が引いたとき、引くと雁木タクシーさんはちょっと困ってしまうかもしれませんが、いつも満潮であってほしいかもしれませんが、水が引いたとき、この広島の子供たちがそこでいろんな学習、経験、体験をできたらいいと思います。

そういう総合的な学習は、国交省だけではできません。市や、教育機関が総力を挙げないとできないのです。

このように太田川の河川空間を利用してもらったら非常にうれしいと考えております。

○佐田尾 ありがとうございます。

確かにこのシジミの映像はほかの都市では見られないものだと思います。

せんだっての「ブラタモリ」でも、白島あたりで船に乗ったタモリさんが走っていく鉄道を見ながらシジミ汁を振る舞われるという光景があって、これを称して「汁鉄」と言っていたのですが、そういうこともちょっと思い出しました。

それでは、佐々木さんから、太田川を生かすことについての提言、アイデア、観光対策などをお願いしたいと思います。

○佐々木 ここに書き出したものは皆さん思っていることばかりです（図—7 1～7 3）。

先ほど徳元所長からあったとおり、太田川放水路ができて 50 年間、今まで氾濫による災害が全くなかったという面では、機能的な価値は皆さん十分承知だと思います。

ただ、先ほど竹村さんから言われている情緒的な価値について、太田川放水路で可能なことがもつとないのかなと思います。

放水路というのはどうしても、もし水があふれたときにそこに水を流すという面では、安全性との折り合いをどうつけるかということになります。

ただ、50 年のこの実績がありますから、どれだけの雨が降れば放水路に立ち入ってはいけないとか、立入禁止にするとか、そういう学習効果はもう十分あるのではないか。それを含んだ上で、100 万人

今後太田川放水路に期待すること

治水安全度における機能的な価値は充分と思われる。
今後は市民にとっての情緒的な機能面(親水公園)が期待される。
当然放水路という機能からして、災害時の安全対策が最重要であるが
50年の実績から、安全性との折り合いがつけれると考える。

- ◆常設のトイレやBBQ場、洗い場等の設置。(安全性の担保は不可欠)
- ◆また安全面と衛生面を維持するために有料にする(雇用を創出)
- ◆移動販売の売店や飲食の可能性の追求(賑わいの創出)
- ◆市民ハゼ釣り大会の再開。
- ◆シジミ堀やつくし狩り等、楽しみ方のアナウンス。

図—7 1 今後太田川放水路に期待すること(1)

今後太田川放水路に期待すること

治水安全度における機能的な価値は充分と思われる。
今後は市民にとっての情緒的な機能面(親水公園)が期待される。
当然放水路という機能からして、災害時の安全対策が最重要であるが
50年の実績から、安全性との折り合いがつけられると考える。

行徳橋河川敷バーベキューエリア



図—7 2 今後太田川放水路に期待すること(2)

今後太田川放水路に期待すること

治水安全度における機能的な価値は充分と思われる。
今後は市民にとっての情緒的な機能面(親水公園)が期待される。
当然放水路という機能からして、災害時の安全対策が最重要であるが
50年の実績から、安全性との折り合いがつけられると考える。



図—7 3 今後太田川放水路に期待すること(3)

都市に隣接したあれだけ広大な自然環境どう活用するのか。

一つは、観光については「近悦遠来」という言葉があります。近くの者が楽しまないで遠くの者は来ない。

それから言うと、この太田川放水路は、あれだけの交通のアクセスを含め、あるいは広さといい、もっと活用できるのではないかと。

実は私、自宅がいまでもって大芝です。勤務先が商工センターで、毎日のように太田川放水路を通っています。多分、太田川放水路を一番よく通っているのではないかと思います。

市民の多くの方はあそこで、春になればツクシをとったり、そして夏になればバーベキューをしたり、野球をしたり、本当に四季を通して楽しんでおられるのです。

でも、どこかに「使わせてあげてる」感があります。「どうぞ使ってください」ではなくて、「使ってもいいよ」「使わせてあげてる」というのを感じてしまうのです。

ですから、もっと市民にオープンにするためには、他の地区でもあるのですが、例えば有料にしてトイレとか、手洗い場とか、ごみとかもちゃんとそこで処理できるようなことにするとか、もっと言うと、アウトドア教室は、アウトドアのメーカーさんとかショップがたくさんありますので、そういったところと提携するとか、あと、私が子供のころには市民ハゼ釣り大会があったのですが、それも、釣り具メーカーや釣り道具屋さんとかと協賛して、いかに企業と組むか。

さっき竹村さんに聞いたのですが、ネーミングライツ、企業の名前をつけさせてバーベキュー公園にして、その企業から年間幾らかの広告宣伝料をとり、それをもって運営するというようなことも含め、いろんなやり方が模索できるのではないかと。そこをぜひお願いしたいと思うのが一つです。

もう一つは、この太田川放水路という遠大な都市計画、80年前にあれだけの広さとあれだけのコストをかけてできた太田川放水路を、今から80年も90年も前に私たちの先輩たちは決断してなし遂げたという面からすると、今、この広島に、長い目で見たランドデザインが本当にあるのかどうか。

確かに住民たちの目先の要望もあると思います。けれども、本来、この広島という、世界的に知名度の高い、また、さっき皆さんがおっしゃられたように、この政令都市の中にこれだけの自然環境があり、また、今、観光客の方もインバウンドの方もたくさん目



を向けてくれています。

そういった中で、広島の大規模デザインはどうあるべきかというのをまさに考える時期に来ているのかなというのを、この太田川放水路完成 50 周年を機に改めて考えさせられた次第です。

以上です。

○佐田尾 ありがとうございます。

それでは、氏原さんから、同じ質問にはなりますけれども、今後の活用策についてお願いします。

○氏原 舟運としては、陸の交通が大変便利な広島にあって、船に利便性を求めるとかなり厳しいものがあると思っております。

強いて言うならば、まちから島嶼部に行くという、呉とか江田島とかいうのはありかなと思います。

私は雁木タクシーの予約電話を受けているのですが、時々、「海のほうに行きたい」という問い合わせを受けることがあります。

私たちのような小型ボートが大海原に出るとちょっと不安でもありますし、吉島のボートパークあたりで海に適した船に乗りかえていただくとかいう工夫によって、便利に行っていただくことができると思います。

私たちは、利便性はややあきらめています、市民の皆さんが水辺に対して持っている想いを実現することのお手伝いは今できているのかなと思うことがあります。

雁木タクシーに乗って見ると、これは本川ですが、南のほうを見たときに、100 年前とほとんど変わらない風景を見ていただくことができます（図—7 4）。

右に楠木の大きな雁木があって、別院が正面に見えて、左側に基町の環境護岸があるという、こういう歴史を感じていただくことができると思います。

住吉神社で年に 1 回、漕伝馬を出していらっしゃるのを御存じでしょうか。私どもはこれを追っかける船を出しております（図—7 5）、こんなすてきな伝統文化があるということを皆さんに知っていただく機会にもなっています。

こちらは、私たちの大切な仲間であるポップラ・ペアレンツ・クラブの皆さんが毎年 POP'La 通りで開催している映画祭です（図—7 6）。

昔のことをたどるのだけではなくて、水辺を今の市民の皆さんが、自分たちの思い思いの形で楽しんでいらっしゃる。とても責任感を持って楽しむというすてきな団体ですが、10 年以上やっていますので、これももう広島文化と言っていいのではないかと感じております。



図—7 4 100 年前と変わらない風景



図—7 5 すみよしさんの追っかけ舟



図一 7 6 水辺の映画祭



図一 7 7 灯籠流し、水上結婚式

それから、8月6日に灯籠流しがありますが、実は全国の修学旅行あるいは海外のグループの皆さんから年中灯籠を流したいというニーズがございます（図一77）。

私たちはその流した灯籠を船で拾うというお手伝いを実はひそかにしてございまして、年間で何十回か出ています。

そういう思いのお手伝いをすることもありますし、右の写真は（図一77）、水辺をこよなく愛する若い夫婦が、どうしても川の上で結婚式を挙げたいということで、お手伝いをいたしました。こんなお手伝いができることを私たちはとても誇りにも思っています。

先日、「どこか便利なコースはないですか」と所長からきかれまして、考えたところ、大手町あたりから大芝に行く、本川の筋ですが、陸の交通よりも何よりも便利かもしれないと思いましたので、最後に紹介したいと思います（図78～81）。

これは、平和公園からある素敵な家族が乗られたときのものですが、若いお父さんと小さなお子様です（図一78）。途中でシジミの船に遭遇したり、それから途中でサギ島を通過して（図一79）、最後に牛田新町にあるマンションに帰る、マンションからおりてきたお母さんがそこでお出迎えすると、そんな経験をしていただきました（図一80）。この御家族にとっては、非日常的な経験だったと思うのですが、いつもと違う風景を楽しんでいただいたと思います（図一81）。

これから、市民の皆さんがこういうふうな、日常的にもっと水に親しくなる、そんな暮らしのお手伝いできれば、雁木タクシーとしても嬉しいと思っております。



図一 7 8 家族で本川ツアー



図一 7 9 サギ島訪問



図—80 お母さんがお出迎え



図—81 非日常の風景への出会い

○佐田尾 ありがとうございます。

それでは、山地さんから、先ほどのお話の補足をまたお願いします。

○松井(代理:山地) それでは、私から、今後のまちづくりにおけるお話の位置づけ、役割ということで、現在取り組んでおります事例、それからこれからどうしたいというところを、松井広島市長の思いを含めて御紹介したいと思います。

まず、オープンカフェでございます。

先ほども御紹介がございましたが、これは京橋川にあるオープンカフェの様子です(図—82)。平成12年、先ほどありましたような実験的な取り組みで行いまして、この取り組みが社会的に認知され、平成16年以降、河川法特例措置として継続的に実施することが認められることとなったというものでございます。

これは元安川の原爆ドーム付近にあるオープンカフェです(図—83)。

現在では、このように、市内の河岸緑地において10店舗が営業を展開しております。市民や観光客に交流の場を提供するとともに、潤いと安らぎを感じる水辺の風景をつくり出しているというものでございます。

水辺のコンサートです(図—84)。これは、原爆ドームの対岸の親水テラスで春と秋に行っております。平成16年の春から始めまして、地元のミュージシャン、学生など、さまざまなジャンルの音楽が楽しまれております。



図—82 京橋川オープンカフェ



図—83 元安川オープンカフェ

水辺のコンサートは市民の芸術活動、水辺の新たな音楽の風景をつくり出しているというものでございますが、今、広島市では、花と緑に音楽を要素に加えていこうということで、見る、触れる、香る、食べる、聞くという、五感に響くまちづくりを推進するために、「花と緑と音楽」の広島づくり」というものを展開しようとしております。

まさに太田川の水辺の空間が、この河岸緑地の花と緑に音楽が相まって、こうしたまちづくりに寄与しており、今後さらにこのような取り組みを広げていきたいと考えております。

この写真は復元した猿猴橋の夜のにぎわいの様子でございます（図—85）。

猿猴橋は、大正15年に現在のコンクリート橋にかけかえられましたが、昭和18年に戦争中の金属類回収令で欄干などの装飾品が全て供出されました。そして昭和20年の原爆投下では欄干の一部が破損するというような被害を受けましたけれども、土台などはしっかりと残っておりました。

そうしたところで、地元の方々の熱い思いがございました。この橋を復元しようということで、平成28年、被爆70周年記念事業として、28年3月でございましたが、大正15年当時の姿に復元したものでございます。

猿猴橋の復元は、広島駅南口、これは玄関口でございますが、これに近い猿猴川におきまして、歴史ある風景を復活して、水の都の玄関口にふさわしい、広島の象徴的な空間としたいという、「美しい川づくり」の一環として取り組んだものでございます。

今後、これを新たな観光資源として、にぎわいづくりにつなげていきたいと考えております。

この図は「美しい川づくり」での川の駅周辺のイメージです（図—86）。

川の駅は、新たな観光資源になった猿猴橋付近に設けたものでございまして、観光客が水上交通を利用して市内観光を楽しめるようにするという狙い、それから休憩所、多目的広場を整備することで人々の交流、にぎわいをつくっていこうというものでございます。

その他、雁木、河岸緑地の整備、川の浚渫、そういう河川的环境整備を行い、広島を、今後の市内観光を支える重要なツールに育てていきたいと考えております。



図—84 水辺のコンサート



図—85 猿猴橋の復元



図—86 川の駅イメージ図



図—87 水上交通の多様化



図—88 200万人広島都市圏構想

先ほど来出ております水上交通の話でございますが、広島を川を活用した水上交通として、雁木タクシーのほかに、今、世界遺産航路、クルーズ船などが既に運航されております（図—87）。

今後、発着できる雁木のさらなる整備ができればいいなど、また、船から眺める風景の魅力向上も必要だなど考えております。

さらには、川から海へ出て、島嶼部へ向かう航路の拡大なども考えていきたいと思っております。広島市では、「200万人広島都市圏構想」という取り組みを進めております。（図—88）

これは、周辺市町と一体となって都市圏を形成していこうというものでございます。

今後、港やマリーナ施設を活用しながら、川と海を船でつなぐ、水上交通のネットワークを強化するというところで、瀬戸内海沿岸部の市町との一層の連携強化が期待できると考えております。

さらには、似島を初めとする島嶼部との連絡が強化されれば、都心部と島嶼部とを関連づけた新たな観光、魅力の創出につながるものと考えております。

最後でございます。まとめのようになって恐縮でございますけれども、広島市は川とともに発展してきた歴史がございます。治水対策とあわせて河岸緑地など川辺を中心に整備が行われてまいりました。

また、太田川放水路と5本の派川によりデルタ市街地を形成し、今、その面積の約2割を水面が占めているということでございます。川は都市の本当に重要な構成要素になっております。

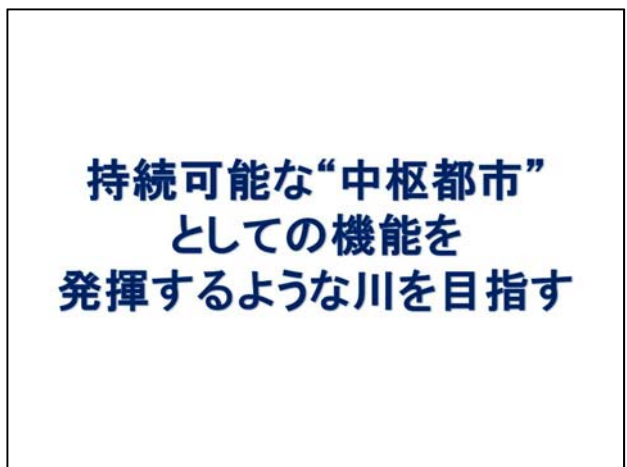
これからも、「水の都ひろしま」というものを目指しまして、オープンカフェなど市民の間に定着しております川辺の利用と一体のものとして改めて川を活用するという考え方を考えていく必要があると考えております。

その際には、引き続き河川管理者の国または県の皆様にも、川の施設、環境の整備・改善をお願いしながら、持続可能な中枢都市、その機能を発揮するような川を目指して、もっともっと川を活用するまちづくりを進めていきたいと考えております（図—89）。

以上でございます。

○佐田尾 ありがとうございます。

おおむね予定の時間となりました。



図—89 広島市の目指す川づくり

きょうは、太田川放水路が果たす防災上の役割、それから水辺を生かす癒し、観光、そういった役割、あるいは教育的な役割、そういったものについて、多面的なところからからお話をいただきました。

また、最後に山地さんがおっしゃった島嶼部との交通、広島川と島嶼部を結ぶような交通が実現できればうれしいなと思っております。

まとめにかえまして、私から一つだけ話題提供をさせていただきたいと思います。

「禹王サミット」という記事を投影していただきます（図—90）。

太田川中流域、上八木ですかね、高瀬堰のもとに「大禹謨」と書いた碑があります。

これは、古川を締め切った後に、旧佐東町の人たちが、72年ですかね、水害がこれで治まるということ、今後ともそういった大きな水害のないようにという願いをこめて、「大禹謨の碑」というものを建立されて、土砂災害の年にサミットを開くということを予定されていたのですけれども、諸事情でできなかったというような記事になっています。

この中国の伝説の治水神、治水の王である禹については、先般 NHK の番組で当地出身の吉川晃司氏が案内していましたが、中国古代史の中で、この禹王とか、それから禹王の時代の王朝が実在するということが発掘調査からだんだんわかってきたということがテレビで報道されていました。

この禹王に関する碑は全国各地にあるようです。

先ほど竹村さんから、禹王といいますか、禹文命という人がこういう言葉を残しているということをお話いただきました。

「石をもって固めよ」「木を植えよ」「堤防の上でお祭りをしよう」というようなことを後世に言い残したと伝えられているそうです。

最後の堤防の上で祭りをしようというのは非常にいいアイデアだと思います。

亥の子であるとか、さまざまなお祭りをもう一度、河川堤防の上あるいは川辺で復活するようなまちになるのもいいのではないかと今思った次第です。

これをもって本日のシンポジウムを終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

司会者にマイクをお返しします。

○司会 コーディネーターをお務めいただいた佐田尾様、そしてパネリストの皆様、本当にありがとうございました。

長時間にわたり活発な意見交換をいただきました皆様に盛大な拍手をお贈りください。（拍手）ありがとうございました。

以上をもちまして、「太田川放水路完成 50 周年シンポジウム」を終了いたします。

